

大阪大学大学院
人間科学研究科

学生便覧

令和6年度（2024年度）

令和6年度 人間科学部・人間科学研究科 学年暦（行事予定）

年	月	日	曜日	学期	事 項
令和6 (2024)	4	1	月	春 学 期	学部新入生履修指導
		2	火		入学式
		3	水		大学院新入生履修指導
		10	水		春学期授業開始
		11	木		課程博士論文題目届提出期限（17時）
		中旬			春学期開講（ターム科目）、夏学期開講（ターム科目）、春・夏学期開講（セメスター科目）、通年開講、夏季集中講義開講の授業科目履修登録申請期限（Web入力） 【履修登録申請期限は別途掲示等により通知します。≪注4≫】
		下旬			春学期開講（ターム科目）、春・夏学期開講（セメスター科目）、通年開講の授業科目履修登録取消期間（Web入力） 【履修登録取消期間は別途掲示等により通知します。≪注4≫】
	5	1	水	夏 学 期	いちよう祭準備（5月1日） 授業未実施日（5月1日、2日） いちよう祭（5月2日、3日） いちよう祭片付け（5月4日）
		9	木		課程博士論文提出期限（17時）
	6	11	火	夏 学 期	春学期授業終了
		12	水		夏学期授業開始
		中旬			夏学期開講（ターム科目）の授業科目履修登録変更期間（Web入力） 【履修登録変更期間は別途掲示等により通知します。≪注4≫】
	8	下旬		夏 学 期	夏学期開講（ターム科目）の授業科目履修登録取消期間（Web入力） 【履修登録取消期間は別途掲示等により通知します。≪注4≫】
		上旬			夏季集中講義開講の授業科目履修登録変更期間（Web入力） 【履修登録変更期間は別途掲示等により通知します。≪注4≫】
		7	水		夏学期授業終了
	9	8	木	夏 学 期	} 夏季休業（集中講義Aゾーン：8月26日～8月30日） （集中講義Bゾーン：9月 2日～9月 6日） （集中講義Cゾーン：9月 9日～9月13日）
		30	月		
		10	1		
	上旬		秋学期開講（ターム科目）、冬学期開講（ターム科目）、秋・冬学期開講（セメスター科目）の各授業科目履修登録申請期限（Web入力） 【履修登録申請期限は別途掲示等により通知します。≪注4≫】		
	中旬		秋学期開講（ターム科目）、秋・冬学期開講（セメスター科目）の授業科目履修登録取消期間（Web入力） 【履修登録取消期間は別途掲示等により通知します。≪注4≫】		
	11	1	金	秋 学 期	大学祭準備（11月1日） 授業未実施日（11月1日、5日）
		5	火		大学祭（11月2日～4日） 大学祭後片づけ（11月5日）
		13	水		卒業論文・修士論文・課程博士論文題目届提出期限（17時）
	12	2	月	冬 学 期	秋学期授業終了
3		火	冬学期授業開始		
上旬		冬学期開講（ターム科目）の授業科目履修登録変更期間（Web入力） 【履修登録変更期間は別途掲示等により通知します。≪注4≫】			
4		水	課程博士論文提出期限（17時）		
下旬		冬学期開講（ターム科目）の授業科目履修登録取消期間（Web入力） 【履修登録取消期間は別途掲示等により通知します。≪注4≫】			
28		土	} 冬季休業		
令和7 (2025)	1	5 日		卒業論文・修士論文提出期限（17時）	
	9	木			
2	上旬		卒業論文・修士論文考査（学科目及び学系により日程が異なる）		
	7	金	冬学期授業終了		
	中旬		大学院研究概要報告書提出期限（17時）		
3	25	火	卒業式・学位記授与式		

- 注 1. 行事予定は、都合により変更することがありますので、掲示に注意してください。
2. 上記の行事予定の詳細及びその他の行事の予定については、掲示により通知します。
3. 全学共通教育における行事予定と一致しない日程もありますので、注意してください。
4. 他学部等開講授業科目の履修登録・取消・変更期限は、このスケジュールとは別になります。必ずKOAN掲示を確認してください。

令和6（2024）年度 人間科学部・人間科学研究科 学年暦（授業スケジュール）

- 春学期授業開講期間（4/10～6/11）
※6/11は月曜日の振替授業・試験実施日とする。
- 夏学期授業開講期間（6/12～8/7）
※8/7は月曜日の振替授業・試験実施日とする。
- 秋学期授業開講期間（10/1～12/2）
※11/27は月曜日の振替授業実施日とする。
- 冬学期授業開講期間（12/3～2/7）
※2/5は月曜日の振替授業・試験実施日とする。

- 春、夏、秋、冬の各学期の区分ごとに開講：ターム科目
- 数字 ターム科目の授業日 試 ターム科目の試験日
- 春・夏学期または秋・冬学期の区分ごとに開講：セメスター科目
- 数字 セメスター科目の授業日 試 セメスター科目の試験日
- ・・・土・日・祝日及び休業日又は授業未実施期間を示す（緑字は祝日）。
- ・・・夏季休業期間を示す。
- ・・・大学行事又は入試準備のための臨時の授業未実施日（予定）を示す。
- ・・・集中講義期間

令和6 (2024)年	日	月	火	水	木	金	土	
4月		学部別 履修指導 1	入学式 2	大学院新入生 履修指導 3	4	5	6	
	7	8	9	①① 10	①① 11	①① 12	13	
	14	①① 15	①① 16	②② 17	②② 18	②② 19	20	
	21	②② 22	②② 23	③③ 24	③③ 25	③③ 26	27	
	28	昭和の日 29	③③ 30					
5月				いちよう祭 準備 1	いちよう祭 2	憲法記念日 いちよう祭 3	みどりの日 いちよう祭 4	
	5	こどもの日 振替休日 6	④④ 7	④④ 8	④④ 9	④④ 10	11	
	12	③③ 13	⑤⑤ 14	⑤⑤ 15	⑤⑤ 16	⑤⑤ 17	18	
	19	④④ 20	⑥⑥ 21	⑥⑥ 22	⑥⑥ 23	⑥⑥ 24	25	
	26	⑤⑤ 27	⑦⑦ 28	⑦⑦ 29	⑦⑦ 30	⑦⑦ 31		
6月							1	
	2	⑥⑥ 3	⑧試⑧ 4	⑧試⑧ 5	⑧試⑧ 6	⑧試⑧ 7	8	
	9	⑦⑦ 10	⑧試⑧ 11	①⑨ 12	①⑨ 13	①⑨ 14	15	
	16	①⑨ 17	①⑨ 18	②⑩ 19	②⑩ 20	②⑩ 21	22	
	23	②⑩ 24	②⑩ 25	③⑪ 26	③⑪ 27	③⑪ 28	29	
	30	(注1) 6月11日は月曜日の振替授業・試験実施日						
7月		③⑪ 1	③⑪ 2	④⑫ 3	④⑫ 4	④⑫ 5	6	
	7	④⑫ 8	④⑫ 9	⑤⑬ 10	⑤⑬ 11	⑤⑬ 12	13	
	14	海の日 15	⑤⑬ 16	⑥⑭ 17	⑥⑭ 18	⑥⑭ 19	20	
	21	⑤⑬ 22	⑥⑭ 23	⑦⑮ 24	⑦⑮ 25	⑦⑮ 26	27	
	28	⑥⑭ 29	⑦⑮ 30	⑧試⑧ 31				
		(注2) 8月7日は月曜日の振替授業・試験実施日						
8月					⑧試⑧ 1	⑧試⑧ 2	3	
	4	⑦⑮ 5	⑧試⑧ 6	⑧試⑧ 7	8	9	10	
	11	山の日 振替休日 12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	集中講義（Aゾーン）						
		集中講義（Bゾーン）						
9月	1	2	3	4	5	6	7	
	8	集中講義（Cゾーン）						
	15	敬老の日 16	17	18	19	20	21	
	22	秋分の日 振替休日 23	24	25	26	27	28	
	29	30						

令和6 (2024)年	日	月	火	水	木	金	土
10月			①① 1	①① 2	①① 3	①① 4	5
	6	①① 7	②② 8	②② 9	②② 10	②② 11	12
	13	スポーツの日 14	③③ 15	③③ 16	③③ 17	③③ 18	19
	20	②② 21	④④ 22	④④ 23	④④ 24	④④ 25	26
	27	③③ 28	⑤⑤ 29	⑤⑤ 30	⑤⑤ 31		
11月						大学祭準備 1	大学祭 2
	3	文化の日 大学祭 3	振替休日 大学祭 4	大学祭片付け 5	⑥⑥ 6	⑥⑥ 7	⑤⑤ 8
	10	④④ 11	⑥⑥ 12	⑦⑦ 13	⑦⑦ 14	⑥⑥ 15	16
	17	⑤⑤ 18	⑦⑦ 19	⑧試⑧ 20	⑧試⑧ 21	⑦⑦ 22	23
	24	⑥⑥ 25	⑧試⑧ 26	⑦⑦ 27	28	⑧試⑧ 29	30
		(注3) 11月27日は月曜日の振替授業実施日					
12月	1	⑧試⑧ 2	①⑨ 3	①⑨ 4	①⑨ 5	①⑨ 6	7
	8	①⑨ 9	②⑩ 10	②⑩ 11	②⑩ 12	②⑩ 13	14
	15	②⑩ 16	③⑪ 17	③⑪ 18	③⑪ 19	③⑪ 20	21
	22	③⑪ 23	④⑫ 24	④⑫ 25	④⑫ 26	④⑫ 27	28
	29	30	31				
令和7 (2025)年				元日 1	2	3	4
	5	④⑫ 6	⑤⑬ 7	⑤⑬ 8	⑤⑬ 9	⑤⑬ 10	11
	12	成人の日 13	⑥⑭ 14	⑥⑭ 15	⑥⑭ 16	試験準備 17	共通テスト 18
	19	共通テスト 20	⑤⑬ 21	⑦⑮ 22	⑦⑮ 23	⑥⑭ 24	25
	26	⑥⑭ 27	⑧試⑧ 28	⑧試⑧ 29	⑧試⑧ 30	⑦⑮ 31	
		(注4) 2月5日は月曜日の振替授業・試験実施日					
2月							1
	2	⑦⑮ 3	4	⑥試⑧ 5	6	⑧試⑧ 7	8
	9	10	推定記念の日 11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	天皇誕生日 振替休日 24	25	26	27	28	
3月							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	春分の日 20	21	22
	23	24	卒業式・大学院 学位記授与式 25	26	27	28	29
	30	31					

(注) 暴風警報の発令等により授業休講があった場合には、別途補講日を設けることがある。

人間科学研究科学生便覧 目次

- ◆ 令和6年度学年暦（行事予定）
- ◆ 令和6年度学年暦（授業スケジュール）
- ◆ 目次
- ◆ 学生便覧に関する注意書き
- ◆ 大阪大学の大学院教育システム

<教育課程・履修関連ガイド>

人間科学研究科の教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー	1
● 博士前期課程	1
● 博士後期課程	4
令和6年度入学者の修了に係る履修方法等	7
● 履修方法（博士前期課程・博士後期課程）	7
● 履修指針（博士前期課程・博士後期課程）	9
● 留意事項（博士前期課程・博士後期課程）	10
● 博士前期課程教育課程表（授業科目一覧）	12
● 博士後期課程教育課程表（授業科目一覧）	19
全学の大学院学生対象に開設開講する授業科目・教育プログラムの案内	23
履修・試験・授業等に関すること	26
研究指導・修士論文・博士論文に関すること	33

<修学・学生生活関連ガイド>

修学・学生生活等における諸事項	36
健康管理・学生相談	46
保険・リスク管理	49
資格・免許	51
人間科学研究科・人間科学部教員一覧	57
人間科学研究科・人間科学部講義室等配置図	61

以下の情報は人科ホームページに掲載していますので、必ず確認してください。

授業料
奨学金
学部・研究科内の施設等
人間科学研究科各室及び研究科附属未来共創センターの紹介
就職

人間科学研究科・人間科学部ホームページ

<https://www.hus.osaka-u.ac.jp>

学生便覧に関する注意書き

この学生便覧は、皆さんがこれから大阪大学で学び、学業を修めるために必要となる重要な情報を掲載しています。また、学生生活を送るうえで必要となる手続きやルール、その他の案内事項についても取りまとめています。内容をよく読み、大切に保管しておくようにしてください。

なお、この学生便覧を冊子として配付するのは入学時のみとなります。在学中、学生便覧の内容に変更が生じたときや更新が生じた場合には、KOAN掲示板や大阪大学人間科学研究科・人間科学部のホームページに掲載しお知らせします。

<留意事項>

- この学生便覧に掲載する情報の多くは、大阪大学、あるいは大阪大学人間科学研究科・人間科学部が定める規程等に基づいています。代表的な規程について列挙します。

<大阪大学ホームページ/大阪大学規程集>

https://www.osaka-u.ac.jp/jp/about/kitei/reiki_menu.html

以下、上記規程集に掲載されています。

○大阪大学学部学則

http://www.osaka-u.ac.jp/jp/about/kitei/reiki_honbun/u035RG00000001.html

○大阪大学大学院学則

http://www.osaka-u.ac.jp/jp/about/kitei/reiki_honbun/u035RG00000002.html

○大阪大学学位規程

http://www.osaka-u.ac.jp/jp/about/kitei/reiki_honbun/u035RG00000093.html

○大阪大学学生納付金規程

http://www.osaka-u.ac.jp/jp/about/kitei/reiki_honbun/u035RG00000468.html

○大阪大学人間科学部規程

http://www.osaka-u.ac.jp/jp/about/kitei/reiki_honbun/u035RG00000156.html

○大阪大学大学院人間科学研究科規程

http://www.osaka-u.ac.jp/jp/about/kitei/reiki_honbun/u035RG00000157.html

- この学生便覧に掲載する情報のうち、ホームページのURLを掲載しているものは、当該ホームページにより詳細な情報が掲載されています。確認してください。
- 時間割表やシラバスは、人間科学研究科・人間科学部ホームページ/在学生の情報へ
<https://www.hus.osaka-u.ac.jp>

大阪大学の大学院教育システム

学際融合・社会連携を指向した双翼型大学院教育システム Double-Wing Academic Architecture

大学院教育システム構築の背景と目的

現代社会には、SDGs に代表される様々な課題が数多く存在します。こうした複雑な社会課題を解決するには、それぞれのコアとなる専門的知見に加えて、広い視野から課題を多角的に捉え、多様なステークホルダーと柔軟に協働する力が求められます。

このような社会背景を踏まえて、大阪大学では、大学院での学びを皆さん自身がデザインすることができる新しい大学院教育システム「学際融合・社会連携を指向した双翼型大学院教育システム“Double-Wing Academic Architecture”（以下「DWAA」という。）」を推進しています。

DWAA の考え方

DWAA は、研究科・専攻等における専門分野の教育（「知の探究」型教育）に加え、専門分野のコアの修得を前提として、新たに「知と知の融合」「社会と知の統合」の二つの方向に教育を広げていく点が特徴です。

知の探究

これまでの学術編成を尊重し専門分野を深め、専門家を育成する教育
従来の学術編成に基づいた研究科の専門分野における深い知識や高い技術を保持する人材を育成する教育です。

知と知の融合

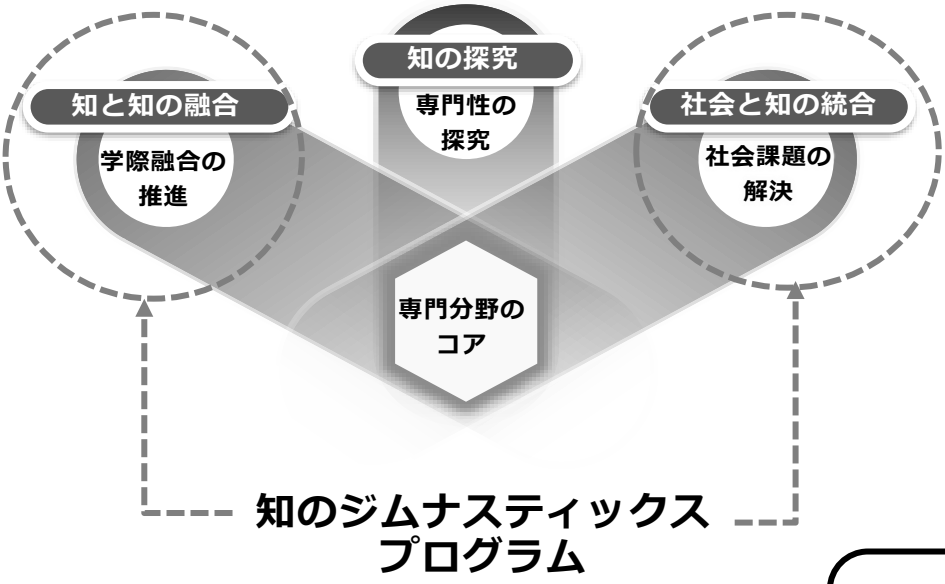
いくつかの異なる学問・研究分野からなる複合領域を学修する教育
異なる分野にも視野を向け知的地平を広げられる教育を指します。
新たな知識や技術の組み合わせを試みる創造的な活動を促進します。

社会と知の統合

社会課題に対する解決に向けての実践的な取り組みを通じて学修する教育

社会の様々なステークホルダーとともに解決すべき課題を発見して解決方法を創造し、さらに社会に実装することができる能力を育成します。授業の中で、社会課題の解決に実践的に取り組む機会を提供し、異なる背景を持った人々と意思疎通を図る能力や社会を変えようとする過程で直面する困難を乗り越える力量を身につけます。授業によっては、学外（社会、企業等）との接点を持った取組み等も含まれます。

学際融合・社会連携を指向した双翼型大学院教育システム (Double-Wing Academic Architecture)



詳細はこちら
↓

知のジムナスティックスプログラムとは

この DWAA の考え方に基づき、「知と知の融合」「社会と知の統合」の二つの学際領域に分類される高度教養教育の教育プログラムを総称して「知のジムナスティックスプログラム」と呼び、専門分野の深化を目指す従来の大学院教育と併せて履修を推進しています。

大阪大学で展開している教育プログラムは以下のとおりです。

教育プログラムの詳細はこちら→

令和6年度（2024年度）入学者

大阪大学大学院 人間科学研究科

教育課程・履修関連ガイド

人間科学研究科の教育目標、 ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

博士前期課程

教育目標

博士前期課程

大阪大学の教育目標のもと、人間科学研究科は1978年に博士前期課程及び博士後期課程の大学院として発足して以来、人間と社会の現実を、行動学・社会学・人間学・教育学・共生学などのさまざまな学問分野の専門的知識（専門知）や、それらの研究方法を融合させて総合的にとらえる統合知を育成しながら、日本及び国際社会に貢献する能力を養うことを目的としています。その目的の実現のために、「学際性」、「実践性」、「国際性」の3つの理念を掲げ、高度な専門性に基づいて、各理念に沿った能力を備えた人材の育成を目指します。

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

行動学系、社会学・人間学系、教育学系、共生学系のいずれかの学系に所属して、それぞれの学系での最先端の知識を学ぶことを通じて高度な専門知を修得すると同時に、学系横断的な考え方や着想力を養いながら、それぞれの専門分野の方法と成果を他の分野の知識と統合させた統合知の習得を目指します。

○高度な教養

専門分野の知識や研究手法を学びつつ、4学系横断の共通必修科目や他学系の科目を履修することで、学際的視点から人間科学を実践するための高度な教養の育成を目指します。

○高度な国際性

社会のグローバル化の趨勢から、国際的な考え方を持つ多様な人々とコミュニケーションできる能力やそれを裏付ける外国語能力の育成に取り組みます。

○高度なデザイン力

実験・調査・フィールドワークの活動を通じて専門知の技法を洗練化・高度化しつつ、社会や現場でのさまざまな研究課題における問題発見・解決力を育むための実践的な教育・研究に取り組みます。

○独自の教育目標

行動学・社会学・教育学・共生学などの多様な専門分野での実践の学びから専門知を育みつつ、それらを学際的な視野からまとめる統合知の習得も目指します。また、専門知や統合知を学内外や社会の現場との相互作用から生み出される共創知へとつなげるための実践力を養います。

博士前期課程では、高度な専門性を持ちながら、人間科学における幅広い学際的視野からさまざまな課題に取り組める職業人の養成や、博士後期課程に進学し研究者となるための基礎の習得を目指します。

大阪大学のディプロマ・ポリシーのもと、人間科学研究科では、日本及び国際社会に貢献する能力を養うため、学際性・実践性・国際性という3つの理念に即した、以下にあげるような能力を修得した学生に修士（人間科学）を授与します。

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

- ・行動学系、社会学・人間学系、教育学系、共生学系のうち、所属する学系の専門分野における高度な知識を体系的に理解している。
- ・自ら設定した研究課題についての専門的知識、及びそれを人間科学的手法により分析・考察できる研究スキルを修得している。

○高度な教養

- ・現代社会やそこに生きる人間におけるさまざまな課題に学際的視点から応えるために必要となる高度で、かつ、幅広い教養を持っている。

○高度な国際性

- ・日本及び国際社会に貢献するための学際的で幅広い知識や外国語力を十分に身につけている。
- ・自身の研究で得た知見を日本及び世界に発信するためのプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を持っている。

○高度なデザイン力

- ・自らの研究課題を発見しながら、実験・調査・フィールドワークにおいて専門分野や関連分野のさまざまな専門的知識や研究手法を融合させつつ、その課題に取り組める研究展開力を持っている。
- ・さまざまな専門的知識を持つ他者とコミュニケーションを取りながら、研究や課題解決を展開できる。

人間科学研究科の博士前期課程では、これらの能力を有し、さらに適切な研究指導を受けながら修士論文を完成させた学生に、高度な専門的知識や教養を備えつつ、学際的視点からさまざまな社会や現場で活躍できる人材として学位を認定します。

大阪大学のカリキュラム・ポリシーのもと、人間科学研究科は、現代という未曾有の転換期に生きる、人間と人間が営む社会がかかえる諸問題を解決するために、グローバルな視点とローカルな知を融合する研究と実践をおこなうカリキュラム構成になっています。

○教育課程編成の考え方

「人間科学専攻」の下に設置された4つの学系（行動学系、社会学・人間学系、教育学系、共生学系）における高度な専門的知識の獲得を促す科目を履修するとともに、学系横断的な知の獲得が可能となるように共通科目群の履修を求めます。科学的・実験実証的・統計学的なアプローチの科目、人文科学・文献研究・質的研究を重視する科目、フィールドワーク科目、そして国際コミュニケーション能力を育成する科目を提供することで、学際的・実践的・国際的な学びを可能にするカリキュラムとしています。

○学修内容及び学修方法

博士前期課程では以下に示す多様な講義・演習を履修しつつ、適切な研究指導を受けながら修士論文を完成させます。

学際的な考え方や人間科学的な視座を学ぶために、博士前期課程では、必修の基礎科目として分野横断型科目を履修します。高度な専門的知識を習得するために、学系の下に設置された8つの大講座（人間行動学、行動生態学、社会環境学、基礎人間科学、臨床教育学、教育環境学、未来共生学、グローバル共生学）における多彩な講義科目・演習科目を系統的に履修します。各学系の全ての講義・演習は、大学院学生の所属学系・講座を問わず分野横断的に履修できます。さらに、高度なデザイン力や研究遂行力を学ぶために、少人数によるアクティブラーニングや文献購読などの演習科目、教員からの対面指導等による特定研究科目によって課題発見やその解決に向けた専門性の高い理論や研究手法・研究スキル等を実践的に習得します。

大学院学生にふさわしい高度な教養や幅広い学問領域の素養を涵養するために、所属講座以外の専門科目を履修します。また、高度な教養を養うために、高度副プログラムの科目や、異なる考え方や文化を持つ他者との協働性の涵養を目指して未来共生リーディング大学院プログラムが開発してきた科目の一部を共通科目として履修することができます。さらに、他研究科が提供する高度教養教育科目の履修ができます。

高度な国際性の基盤となる外国語力を涵養するために、英語の言語科目や英語で行われる人間科学英語コースの大学院学生向け科目を提供します。また、論理的文章作成力や外国語での論文執筆力を習得するために英語での論文作成・研究発表の演習科目も履修できます。国際性をより高めるために外国語で行われる共通科目の履修を通じて、外国語によるコミュニケーション力を養います。

○学修成果の評価方法

学修の成果は、講義や演習の科目では、それぞれの科目のシラバスに記載されている学習目標の達成度について、成績評価の方法（試験や課題へのレポート等）を用いて評価します。実習・フィールドワーク科目では、それぞれの科目での学習目標に関するレポートや研究発表等への成績を基にして評価します。

博士後期課程

教育目標

博士後期課程

大阪大学の教育目標のもと、人間科学研究科は1978年に博士前期課程及び博士後期課程の大学院として発足して以来、人間と社会の現実を、行動学・社会学・人間学・教育学・共生学などのさまざまな学問分野の専門的知識（専門知）や、それらの研究方法を融合させて総合的にとらえる統合知を育成しながら、日本及び国際社会に貢献する能力を養うことを目的としています。その目的の実現のために、「学際性」、「実践性」、「国際性」の3つの理念を掲げ、高度な専門性に基づいて、各理念に沿った能力を備えた人材の育成を目指します。

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

行動学系、社会学・人間学系、教育学系、共生学系のいずれかの学系に所属して、それぞれの学系での最先端の知識の習得による高度な専門知を形成しつつ、専門分野の高度な知識・学識を他の分野の知識と分野横断的に統合させた統合知の習得を目指します。

○高度な教養

文系・理系という従来の専門分野の枠を超えて、人間科学の諸分野の知識や研究手法を学際的に統合するための思考力や展開力を支える高度な教養の育成を目指します。

○高度な国際性

社会のグローバル化の趨勢から、国際的な考え方を持つ多様な人々とリーダーシップを取りながらコミュニケーションできる高度な能力の育成に取り組みます。

○高度なデザイン力

実験・調査・フィールドワークの実践的活動を通じて専門知の技法を洗練化・高度化しつつ、学術や社会、現場でのさまざまな研究課題における問題発見力やその解決のための構想力の育成を目指します。また、社会や現場でリーダーシップを発揮して、さまざまな人々と協働しながら課題に取り組む展開力やその実践から生まれる共創知を養います。

博士後期課程においては、複雑化し激動するグローバル社会の中でも、高度な専門知を備え、かつ、統合知や共創知からさまざまな課題に取り組める専門家及び将来研究者を目指す人材を養成します。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

博士後期課程

大阪大学のディプロマ・ポリシーのもと、人間科学研究科では、日本及び国際社会に貢献する能力を養うため、学際性・実践性・国際性という3つの理念に即した、以下にあげるような能力を修得した学生に博士（人間科学）を授与します。

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

- ・所属する学系の専門分野における高度な知識を体系的に理解し、活用できる。
- ・自ら設定した課題についての専門的知識、及びそれを人間科学的手法により分析・考察できる研究スキルを修得し、高度な研究ができる。

○高度な教養

- ・現代社会やそこに生きる人間におけるさまざまな課題に学際的視点から応えるために必要となる高度で、かつ、幅広い教養を持っている。

○高度な国際性

- ・日本及び国際社会に貢献するための学際的で幅広い知識や外国語での表現力を十分に身につけている。
- ・自身の研究で得た知見を日本及び世界に発信するためのプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を持っている。

○高度なデザイン力

- ・自ら発見・設定した課題を実験・調査・フィールドワークなどを通じて研究・分析するために必要となる高度で、実践的な研究力を持ち、学術的な成果としてもまとめ上げる表現力を持っている。
- ・さまざまな専門的知識を持つ他者とコミュニケーションを取りながら、研究や課題解決を高度に展開できる。

人間科学研究科の博士後期課程では、これらの能力を有し、かつ適切な研究指導に基づいて博士學位論文を完成させた学生に、高度な専門的知識に加えて、学際的かつ柔軟な視点を持ちつつ、国際的にも活躍可能な専門研究者として学位を認定します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）**博士後期課程**

大阪大学のカリキュラム・ポリシーのもと、人間科学研究科は、現代という未曾有の転換期に生きる人間と人間が営む社会がかかえる諸問題に科学的にアプローチするために、グローバルな視点とローカルな知を融合するための研究と実践をおこなうカリキュラム構成になっています。

○教育課程編成の考え方

学際的・国際的な研究力や課題解決のための実践力を育成するために、「人間科学専攻」の下に設置された4つの学系（行動学系、社会学・人間学系、教育学系、共生学系）が提供する特別演習・特別研究の履修を通じて、科学的・実験実証的・統計学的なアプローチ、人文科学・文献研究・質的研究・フィールドワークの視座や考え方、そして国際コミュニケーションや国際比較の手法を学修します。そして、適切な研究指導を受けながら、博士學位論文を完成させます。

○学修内容及び学修方法

博士後期課程では博士學位論文の完成を目指して個々の研究課題に取り組むとともに、高度な専門的知識を活用した研究活動を促進するために、そして、研究における高度なデザイン力や研究遂行力を身に付けるために、教員からの個別指導等による特別研究を履修し、研究スキルや研究手法、専攻する学問分野独自の理論や思考法などを身に付け、発展させます。

課題発見やその解決のための研究力や実践力を育成するために、少人数による特別演習科目では、アクティブラーニングや演習形式によって専門性の高い知識・理論や研究手法を学びます。高度な外国語能力や国際的視野を習得するために、特別演習では外国語で書かれた文献の講読・輪読や文献紹介にも取り組みます。また、文献輪読や研究発表を通じて、高度なコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を涵養します。

大学院学生にふさわしい高度な教養や幅広い学問領域の素養を涵養するために、高度副プログラムの科目や未来共生リーディング大学院プログラムが開発してきた科目などの共通科目を受けることができます。また、他研究科が提供する高度教養教育科目の履修によって高度な教養を習得することができます。

○学修成果の評価方法

学修の成果は、特別演習において、シラバスに記載されている学習目標の達成度について、課題・実習・フィールドワークへのレポートの成績を基にして評価します。特別研究は、博士学位論文の完成のための研究指導であるため、論文作成上での諸活動での成果を基に評価します。

令和6年度入学者の修了に係る履修方法等

令和6年度入学者の履修方法

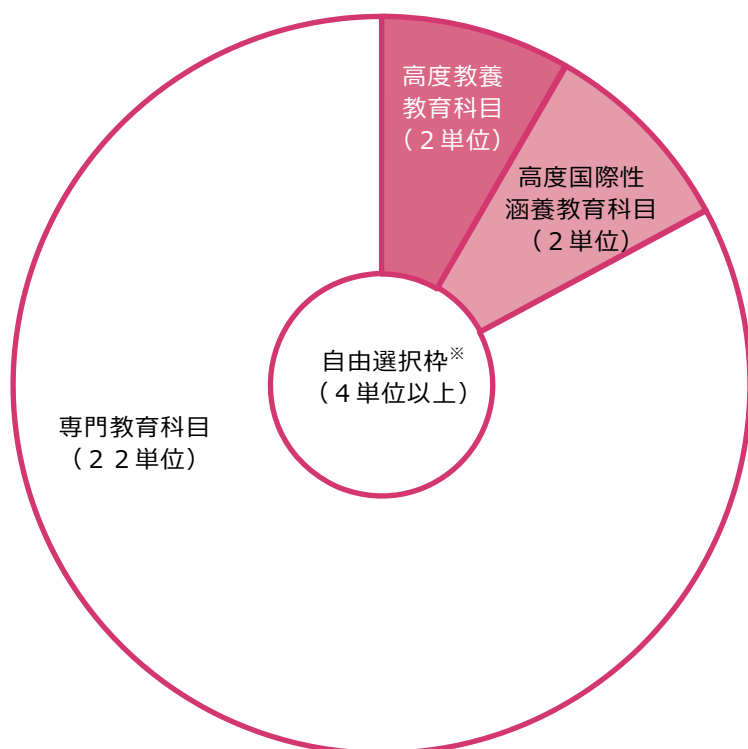
博士前期課程の教育課程は大きく専門教育科目、高度国際性涵養教育科目と高度教養教育科目に区分され、博士前期課程を修了するためには、この課程に2年以上在学（休学期間を除く）し、大阪大学人間科学研究科規程で定める履修方法により必要な単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければなりません。

博士後期課程の教育課程は専門教育科目に区分され、博士後期課程を修了するためには、この課程に3年以上在学（休学期間を除く）し、大阪大学人間科学研究科規程で定める履修方法により必要な単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査及び最終試験に合格しなければなりません。

上記の大阪大学人間科学研究科規程で定める履修方法については、次ページに記載のとおりです。

（博士前期課程の履修イメージ）

修了要件単位（30単位以上）



※「自由選択枠」とは：

修了に必要な30単位以上を修得するために、「専門教育科目」22単位、「高度国際性涵養教育科目」2単位及び「高度教養教育科目」2単位のほかに、これら3つの系科目に属する授業科目のうち、人間科学研究科が指定する科目区分の授業科目から修得する必要がある単位（4単位以上）。

※詳しくは、学生便覧p8以降を確認してください。

大阪大学人間科学研究科規程 別表1

1 博士前期課程

区	分	修了要件単位	修得単位数等
専門教育科目 (別表2の1)	必修科目	10	基礎科目の「人間科学学際研究特講」2単位及び所属講座の授業科目の中から特定研究8単位の計10単位を修得すること。
	選択必修	8	所属講座の授業科目の中から特講又は特定演習8単位以上を修得すること。
	選択科目	4	所属講座の実習科目、所属講座以外の講座の授業科目若しくは共通科目、他研究科の授業科目又はリーディングプログラムの授業科目から4単位以上を修得すること。ただし、高度教養教育科目又は高度国際性涵養教育科目を除く。
高度国際性涵養教育科目		2	次の授業科目のうちから2単位以上を修得すること。 <ul style="list-style-type: none"> ・本研究科が高度国際性涵養教育科目として開設する科目(別表2の2) ・他研究科が高度国際性涵養教育科目として提供する科目で本研究科が指定する科目 ・リーディングプログラム科目で本研究科が認める科目 ・国際交流科目で本研究科が認める科目
高度教養教育科目		2	次の授業科目のうちから2単位以上を修得すること。 <ul style="list-style-type: none"> ・本研究科が高度教養教育科目として開設する科目(別表2の3) ・他研究科が高度教養教育科目として提供する科目で本研究科が指定する科目 ・大学院横断教育科目で本研究科が認める科目 ・リーディングプログラム科目で本研究科が認める科目
合計		30	別に定める履修指針に従い、上記の要件をすべて満たしたうえで、合計30単位以上を修得しなければならない。

(履修上の注意)

修了に必要な30単位以上を修得するために、「専門教育科目」22単位、「高度国際性涵養教育科目」2単位、「高度教養教育科目」2単位の合計26単位の他に、これら3つの科目区分に属する授業科目のうち、人間科学研究科が指定する授業科目から『自由選択枠』の単位として4単位以上を修得しなければなりません。

2 博士後期課程

区分		修了要件単位	修得単位数等
専門教育科目 (別表3)	選択必修科目	8	所属講座の授業科目の中から特別研究4単位以上を修得すること。 所属講座の授業科目の中から特別演習等4単位以上を修得すること。
	選択科目	4	本研究科若しくは他研究科の後期課程の授業科目、大学院横断教育科目、リーディングプログラム科目又は国際交流科目の大学院学生対象授業科目(グローバルイニシアティブ科目群に限る。)の中から4単位以上を修得すること。
合	計	12	別に定める履修指針に従い、上記の要件をすべて満たしたうえで、合計12単位以上を修得しなければならない。

令和6年度入学者に対する履修指針（博士前期課程）

I. 専門教育科目（22単位以上）

A. 必修科目（10単位）

別表2の1に定める基礎科目の「人間科学学際研究特講」2単位及び所属講座の授業科目の中から特定研究^注を8単位の計10単位を修得すること。なお、必修科目から10単位を超えて修得した単位は、自由選択枠の単位として修了に必要な単位数に算入することはできない。

注）毎年次・毎学期に指導教員が担当する特定研究を履修し、8単位を修得すること。

B. 選択必修科目（8単位以上）

別表2の1に定める所属講座の授業科目の中から特講^{注1}又は特定演習^{注2}を8単位以上修得すること。なお、選択必修科目から8単位を超えて修得した単位は、自由選択枠の単位（4単位以上）として修了に必要な単位数に算入することができる。

注1）「教育分野に関する理論と支援の展開」及び「保健医療分野に関する理論と支援の展開」で修得した単位は、「特講」の単位として取り扱います。

注2）「司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開」及び「心の健康教育に関する理論と実践」で修得した単位は、「特定演習」の単位として取り扱います。

C. 選択科目（4単位以上）

別表2の1に定める所属講座の実習科目、所属講座以外の講座の授業科目若しくは共通科目、他研究科の授業科目又はリーディングプログラムの授業科目から4単位以上を修得すること。ただし、高度教養教育科目又は、高度国際性涵養教育科目を除く。

なお、選択科目から4単位を超えて修得した単位は、自由選択枠の単位（4単位以上）として修了に必要な単位数に算入することができる。

II. 高度国際性涵養教育科目（2単位以上）

人間科学研究科が高度国際性涵養教育科目として開設する「英語による国際コミュニケーションⅠ、Ⅱ（各2単位）」のいずれかから2単位を修得すること。ただし、英語を母語とする留学生や社会人学生で履修が困難など特段の事情がある場合には、指導教員の指導により「英語による国際コミュニケーションⅠ、Ⅱ」以外の高度国際性涵養教育科目の履修を認める。

なお、高度国際性涵養教育科目とは次に示す科目である。

- 人間科学研究科が高度国際性涵養教育科目として開設する科目（別表2の2）
- 他研究科が高度国際性涵養教育科目として提供する科目で人間科学研究科が指定する科目（※）
- リーディングプログラム科目で人間科学研究科が認める科目（※）
- 国際交流科目で人間科学研究科が認める科目（※）

※毎年4月初旬と9月初旬に教務係よりKOAN掲示にて通知します。

また、上記の高度国際性涵養教育科目から2単位を超えて修得した単位は、自由選択枠の単位として修了に必要な単位数に算入することができる。

Ⅲ. 高度教養教育科目（2単位以上）

次に示す高度教養教育科目から2単位以上を修得すること。なお、高度教養教育科目から2単位を超えて修得した単位は、自由選択枠の単位（4単位以上）として修了に必要な単位数に算入することができる。

- 人間科学研究科が高度教養教育科目として開設する科目（別表2の3）
- 他研究科が高度教養教育科目として提供する科目で人間科学研究科が指定する科目（※）
- 大学院横断教育科目で人間科学研究科が認める科目（※）
- リーディングプログラム科目で人間科学研究科が認める科目（※）

※毎年4月初旬と9月初旬に教務係より KOAN 掲示にて通知します。

令和6年度入学者に対する履修指針（博士後期課程）

I. 専門教育科目（12単位以上）

A. 選択必修科目（8単位以上）

- 別表3に定める所属講座の授業科目の中から特別研究を4単位以上修得すること。
- 別表3に定める所属講座の授業科目の中から特別演習等を4単位以上修得すること。

B. 選択科目（4単位以上）

別表3に定める所属講座又は所属講座以外の講座の授業科目、共通科目若しくは他研究科の後期課程の授業科目、大学院横断教育科目、リーディングプログラム科目^注又は国際交流科目の大学院学生対象授業科目（グローバルイニシアティブ科目群に限る。）の中から4単位以上を修得すること。

注)「人間科学未来共生博士教育プログラム」の授業科目のうち、「未来共生ワークショップ特別演習」及び「未来共生リーディング特別演習」に限る。

Ⅱ. 高度教養教育科目と高度国際性涵養教育科目

修了に必要な単位数に算入することはできないが、博士後期課程の学生向けに開講する高度教養教育科目や高度国際性涵養教育科目を任意に履修することを推奨する。

留意事項（博士前期課程・博士後期課程）

履修方法等に関連する留意事項は下記のとおりです。

(1) 人間科学部の授業科目の履修（博士前期課程のみ）

人間科学部の授業科目を履修して修得した単位は、4単位を上限として、専門教育科目/選択科目の単位に充当することができる。なお、専門教育科目/選択科目の単位への算入を希望する者は、教務係より9月初旬に KOAN 掲示にて指示する方法に従い、指導教員の許可を得た上で期日までに所定の手続きを行わなければならない。

(2) 他研究科の授業科目の履修（博士前期課程のみ）

他研究科科目を履修し修得した単位を修了に必要な単位数に算入することを希望する者は、教務係より9月初旬に KOAN 掲示にて指示する方法に従い、指導教員の許可を得た上で期日までに所定の手続きを行わなければならない。

注) 他研究科が高度教養教育科目又は高度国際性涵養教育科目として提供する授業科目以外の授業科目のみ対象。専門教育科目の選択科目の単位に充当。

(3) 「心理実践実習」について（博士前期課程のみ）

特別科目「心理実践実習Ⅰ～Ⅳ」は、修了に必要な単位に算入することはできない。

(4) 他研究科の後期課程の授業科目の履修（博士後期課程のみ）

他研究科の博士後期課程の授業科目を履修し修得した単位は、専門教育科目の選択科目の単位に充当することができる。なお、専門教育科目の選択科目の単位への算入を希望する者は、教務係より9月初旬に KOAN 掲示にて指示する方法に従い、指導教員の許可を得た上で期日までに所定の手続きを行わなければならない。

(5) 同一授業科目の履修について

指導教員が担当する特定研究（博士前期課程のみ）・特別研究（博士後期課程のみ）を除く授業科目のうち、既に単位を修得した科目の再履修は認められない。ただし、人間科学研究科が開講する授業科目で、授業担当教員が認めるときに限り、再履修を認める。

(6) 外国の大学に留学中に修得した単位について（博士前期課程・博士後期課程共通）

本学（人間科学研究科）と大学間（部局間）学生交流協定を締結している外国の大学に留学し、当該大学で単位を修得した場合、所定の手続のうえ、修了に必要な単位として認定することができる。（休学期間中に協定校以外の海外の大学で修得した科目の単位についても、上記と同様に認定が可能）

(7) 未来共創センターにおける実践型学修活動の単位認定について（博士前期課程・博士後期課程共通）

未来共創センターにおける実践型の諸活動に学生が主体的に関わり、その学修活動の成果等に対して単位認定を申請する場合は、所定の申請様式を同センターに提出すること。

なお、単位認定は、教務委員会で審査するとともに、認められた場合は次の科目として認定する。

博士前期課程：共通科目「総合人間科学実習Ⅰ」（2単位）

「総合人間科学実習Ⅱ」（2単位）

博士後期課程：共通科目「総合人間科学特別実習Ⅰ」（2単位）

「総合人間科学特別実習Ⅱ」（2単位）

(8) メディア授業科目について（博士前期課程・博士後期課程共通）

メディア授業とは、対面授業の授業科目の一部として、いわゆる同時性又は即応性を持って双方向性（対話性）を有し、対面授業に相当する教育効果を有すると認められるメディア授業が全開講回数半数以上となる授業科目を「メディア授業科目」としています。本研究科の授業でもメディア授業として提供されるものがありますのでシラバスを確認してください。

大阪大学人間科学研究科規程 別表2（前期課程授業科目表）

人間科学専攻

別表2の1 専門教育科目

区分	授業科目名	単位数	備考
基礎科目	人間科学学際研究特講	2	
人間行動学講座	基礎心理学特講Ⅰ	2	
	基礎心理学特定演習Ⅰ	2	
	基礎心理学特定演習Ⅱ	2	
	基礎心理学特定研究Ⅰ	2	
	基礎心理学特定研究Ⅱ	2	
	応用認知心理学特講Ⅰ	2	
	応用認知心理学特定演習Ⅰ	2	
	応用認知心理学特定演習Ⅱ	2	
	応用認知心理学特定研究Ⅰ	2	
	応用認知心理学特定研究Ⅱ	2	
	社会心理学特講Ⅰ	2	
	社会心理学特講Ⅱ	2	
	社会心理学特定演習Ⅰ	2	
	社会心理学特定演習Ⅱ	2	
	社会心理学特定研究Ⅰ	2	
	社会心理学特定研究Ⅱ	2	
	臨床死生学・老年行動学特講Ⅰ （福祉分野に関する理論と支援の展開）	2	
	臨床死生学・老年行動学特定演習Ⅰ	2	
	臨床死生学・老年行動学特定演習Ⅱ	2	
	臨床死生学・老年行動学特定研究Ⅰ	2	
	臨床死生学・老年行動学特定研究Ⅱ	2	
	環境行動学特講Ⅰ	2	
	環境行動学特定演習Ⅰ	2	
	環境行動学特定演習Ⅱ	2	
	環境行動学特定研究Ⅰ	2	
	環境行動学特定研究Ⅱ	2	
	安全行動学特講Ⅰ （産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	2	
	安全行動学特定演習Ⅰ	2	
	安全行動学特定演習Ⅱ	2	
	安全行動学特定研究Ⅰ	2	
	安全行動学特定研究Ⅱ	2	
	人間行動学フィールドワーク実習Ⅰ	2	
	人間行動学フィールドワーク実習Ⅱ	2	
人間行動学方法実習Ⅰ	2		
人間行動学方法実習Ⅱ	2		
行動生態学講座	比較発達心理学特講 （心理的アセスメントに関する理論と実践）	2	
	比較発達心理学特定演習Ⅰ	2	
	比較発達心理学特定演習Ⅱ	2	
	比較発達心理学特定研究Ⅰ	2	
	比較発達心理学特定研究Ⅱ	2	
	行動生理学特講Ⅰ	2	

区分	授業科目名	単位数	備考
行動生態学講座	行動生理学特講Ⅱ	2	
	行動生理学特定演習Ⅰ	2	
	行動生理学特定演習Ⅱ	2	
	行動生理学特定研究Ⅰ	2	
	行動生理学特定研究Ⅱ	2	
	行動統計科学特講Ⅰ	2	
	行動統計科学特定演習Ⅰ	2	
	行動統計科学特定演習Ⅱ	2	
	行動統計科学特定研究Ⅰ	2	
	行動統計科学特定研究Ⅱ	2	
	生物人類学特講Ⅰ	2	
	生物人類学特定演習Ⅰ	2	
	生物人類学特定演習Ⅱ	2	
	生物人類学特定研究Ⅰ	2	
	生物人類学特定研究Ⅱ	2	
	比較行動学特講Ⅰ	2	
	比較行動学特定演習Ⅰ	2	
	比較行動学特定演習Ⅱ	2	
	比較行動学特定研究Ⅰ	2	
	比較行動学特定研究Ⅱ	2	
行動生態学フィールドワーク実習Ⅰ	2		
行動生態学フィールドワーク実習Ⅱ	2		
行動生態学方法実習Ⅰ	2		
行動生態学方法実習Ⅱ	2		
社会環境学講座	社会理論特講	2	
	現代社会学特講	2	
	現代社会と社会理論特定演習Ⅰ	2	
	現代社会と社会理論特定演習Ⅱ	2	
	現代社会と社会理論特定研究Ⅰ	2	
	現代社会と社会理論特定研究Ⅱ	2	
	計量社会学特講	2	
	社会データ科学特講	2	
	社会調査特定演習Ⅰ	2	
	社会調査特定演習Ⅱ	2	
	経験社会学特定研究Ⅰ	2	
	経験社会学特定研究Ⅱ	2	
	コミュニケーション社会学特講	2	
	コミュニケーション社会学特定演習Ⅰ	2	
	コミュニケーション社会学特定演習Ⅱ	2	
	コミュニケーション社会学特定研究Ⅰ	2	
	コミュニケーション社会学特定研究Ⅱ	2	
	医療社会学特講	2	
	文化社会学特定演習Ⅰ	2	
	文化社会学特定演習Ⅱ	2	
	文化社会学特定研究Ⅰ	2	
	文化社会学特定研究Ⅱ	2	
	社会環境学フィールドワーク実習Ⅰ	2	
	社会環境学フィールドワーク実習Ⅱ	2	
社会環境学方法実習Ⅰ	2		
社会環境学方法実習Ⅱ	2		

区分	授業科目名	単位数	備考
基礎人間科学講座	人間科学基礎理論特講	2	
	科学哲学・分析哲学特講	2	
	科学哲学・分析哲学特定演習Ⅰ	2	
	科学哲学・分析哲学特定演習Ⅱ	2	
	科学哲学・分析哲学特定研究Ⅰ	2	
	科学哲学・分析哲学特定研究Ⅱ	2	
	認識論・形而上学特講	2	
	哲学と質の研究特講	2	
	哲学の人間学特講	2	
	哲学と質の研究特定演習Ⅰ	2	
	哲学と質の研究特定演習Ⅱ	2	
	哲学と質の研究特定研究Ⅰ	2	
	哲学と質の研究特定研究Ⅱ	2	
	現象学的な質的研究特講	2	
	比較文明学特講	2	
	比較思想史特講	2	
	比較文明学特定演習Ⅰ	2	
	比較文明学特定演習Ⅱ	2	
	比較文明学特定研究Ⅰ	2	
	比較文明学特定研究Ⅱ	2	
	人類学理論特講	2	
	グローバル化と文化特講	2	
	グローバル化と文化特講Ⅱ	2	
	人類学特定演習Ⅰ	2	
	人類学特定演習Ⅱ	2	
	人類学特定演習Ⅲ	2	
	人類学特定研究Ⅰ	2	
	人類学特定研究Ⅱ	2	
	応用人類学特講	2	
	科学技術と文化特定演習Ⅰ	2	
	科学技術と文化特定演習Ⅱ	2	
	科学技術と文化特定研究Ⅰ	2	
	科学技術と文化特定研究Ⅱ	2	
基礎人間科学フィールドワーク実習Ⅰ	2		
基礎人間科学フィールドワーク実習Ⅱ	2		
基礎人間科学方法実習Ⅰ	2		
基礎人間科学方法実習Ⅱ	2		
臨床教育学講座	人間変容論特講Ⅰ	2	
	人間変容論特講Ⅱ	2	
	教育人間学特講	2	
	外国教育史特講	2	
	教育哲学特講	2	
	教育思想史特講	2	
	教育人間学特定演習Ⅰ	2	
	教育人間学特定演習Ⅱ	2	
	教育人間学特定研究Ⅰ	2	
	教育人間学特定研究Ⅱ	2	
	人間変容論特定演習Ⅰ	2	
	人間変容論特定演習Ⅱ	2	

区分	授業科目名	単位数	備考
臨床教育学講座	人間変容論特定研究Ⅰ	2	
	人間変容論特定研究Ⅱ	2	
	教育工学特講Ⅰ	2	
	教育工学特講Ⅱ	2	
	教育工学特定演習Ⅰ	2	
	教育工学特定演習Ⅱ	2	
	教育工学特定研究Ⅰ	2	
	教育工学特定研究Ⅱ	2	
	教育分野に関する理論と支援の展開	2	注1
	人格心理学特講	2	
	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	2	注2
	教育心理学特定演習Ⅱ	2	
	教育心理学特定研究Ⅰ	2	
	教育心理学特定研究Ⅱ	2	
	臨床心理学特講Ⅰ	2	
	臨床心理学特講Ⅱ	2	
	臨床心理面接特講Ⅰ (心理支援に関する理論と実践)	2	
	臨床心理面接特講Ⅱ	2	
	心理支援法特講 (心理支援に関する理論と実践)	2	
	心理療法特講	2	
	障がい児(者)心理学特講Ⅰ	2	
	障がい児(者)心理学特講Ⅱ	2	
	臨床心理学研究法特講	2	
	臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践)	2	
	臨床心理査定演習Ⅱ	2	
	臨床心理学特定演習Ⅰ	2	
	臨床心理学特定演習Ⅱ	2	
	臨床心理基礎実習Ⅰ	2	
	臨床心理基礎実習Ⅱ	2	
	臨床心理実習Ⅰ	2	
	臨床心理実習Ⅱ	2	
	臨床心理学特定研究Ⅰ	2	
	臨床心理学特定研究Ⅱ	2	
	認知臨床心理学特定研究Ⅰ	2	
認知臨床心理学特定研究Ⅱ	2		
臨床教育学フィールドワーク実習Ⅰ	2		
臨床教育学フィールドワーク実習Ⅱ	2		
臨床教育学方法実習Ⅰ	2		
臨床教育学方法実習Ⅱ	2		
保健医療分野に関する理論と支援の展開	2	注1	
心の健康教育に関する理論と実践	2	注2	
教育環境学講座	教育社会学特講	2	
	教育関係論特講	2	
	教育社会学特定演習Ⅰ	2	
	教育社会学特定演習Ⅱ	2	
	教育社会学特定研究Ⅰ	2	
	教育社会学特定研究Ⅱ	2	
	教育制度学特講	2	

区分	授業科目名	単位数	備考
教育環境学講座	教育法学特講	2	
	日本教育史特講	2	
	教育制度学特定演習Ⅰ	2	
	教育制度学特定演習Ⅱ	2	
	教育制度学特定研究Ⅰ	2	
	教育制度学特定研究Ⅱ	2	
	生涯教育学特講	2	
	生涯スポーツ学特講	2	
	ジェンダーと教育特講(A)	2	
	生涯教育学特定演習Ⅰ	2	
	生涯教育学特定演習Ⅱ	2	
	生涯教育学特定研究Ⅰ	2	
	生涯教育学特定研究Ⅱ	2	
	教育文化学特講	2	
	学校社会学特講	2	
	コミュニティ教育学特講	2	
	教育文化学特定演習Ⅰ	2	
	教育文化学特定演習Ⅱ	2	
	教育文化学特定研究Ⅰ	2	
	教育文化学特定研究Ⅱ	2	
	教育環境学フィールドワーク実習Ⅰ	2	
	教育環境学フィールドワーク実習Ⅱ	2	
	教育環境学方法実習Ⅰ	2	
教育環境学方法実習Ⅱ	2		
未来共生学講座	共生の人間学特講Ⅰ	2	
	共生の人間学特講Ⅱ	2	
	共生の人間学特定演習Ⅰ	2	
	共生の人間学特定演習Ⅱ	2	
	共生の人間学特定研究Ⅰ	2	
	共生の人間学特定研究Ⅱ	2	
	福祉社会論特定演習Ⅰ	2	
	福祉社会論特定演習Ⅱ	2	
	福祉社会論特定研究Ⅰ	2	
	福祉社会論特定研究Ⅱ	2	
	共生社会論特講Ⅰ	2	
	共生社会論特講Ⅱ	2	
	共生社会論特講Ⅲ	2	
	共生社会論特定演習Ⅰ	2	
	共生社会論特定演習Ⅱ	2	
	共生社会論特定研究Ⅰ	2	
	共生社会論特定研究Ⅱ	2	
	共生行動論特講Ⅰ(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	2	
	共生行動論特講Ⅱ	2	
	共生行動論特定演習Ⅰ	2	
	共生行動論特定演習Ⅱ	2	
	共生行動論特定研究Ⅰ	2	
	共生行動論特定研究Ⅱ	2	
共生教育論特講Ⅰ	2		

区分		授業科目名	単位数	備考
未来共生学講座		共生教育論特講Ⅱ	2	
		共生教育論特定演習Ⅰ	2	
		共生教育論特定演習Ⅱ	2	
		共生教育論特定研究Ⅰ	2	
		共生教育論特定研究Ⅱ	2	
		未来共生学フィールドワーク実習Ⅰ	2	
		未来共生学フィールドワーク実習Ⅱ	2	
		未来共生学方法実習Ⅰ	2	
		未来共生学方法実習Ⅱ	2	
グローバル共生学講座		国際協力学特講Ⅰ	2	
		国際協力学特講Ⅱ	2	
		国際協力学特定演習Ⅰ	2	
		国際協力学特定演習Ⅱ	2	
		国際協力学特定研究Ⅰ	2	
		国際協力学特定研究Ⅱ	2	
		多文化共生学特講Ⅰ	2	
		多文化共生学特定演習Ⅰ	2	
		多文化共生学特定演習Ⅱ	2	
		多文化共生学特定研究Ⅰ	2	
		多文化共生学特定研究Ⅱ	2	
		地域創生論特講Ⅰ	2	
		地域創生論特講Ⅱ	2	
		地域創生論特定演習Ⅰ	2	
		地域創生論特定演習Ⅱ	2	
		地域創生論特定研究Ⅰ	2	
		地域創生論特定研究Ⅱ	2	
		コンフリクトと共生特講Ⅰ	2	
		コンフリクトと共生特講Ⅱ	2	
		コンフリクトと共生特定演習Ⅰ	2	
		コンフリクトと共生特定演習Ⅱ	2	
		コンフリクトと共生特定研究Ⅰ	2	
		コンフリクトと共生特定研究Ⅱ	2	
		グローバル共生学フィールドワーク実習Ⅰ	2	
		グローバル共生学フィールドワーク実習Ⅱ	2	
		グローバル共生学方法実習Ⅰ	2	
	グローバル共生学方法実習Ⅱ	2		
共通科目	コンフリクトの人文学	コンフリクトの人文学特講Ⅰ	2	
		コンフリクトの人文学特講Ⅱ	2	
	高度副プログラム	社会における科学技術特定演習	2	
		高等教育論特講Ⅰ	2	
		高等教育論特講Ⅱ	2	
		高等教育政策論特講	2	
		大学マネジメント論特講Ⅰ	2	
		大学マネジメント論特講Ⅱ	2	
	社会調査法共通教育	人間科学方法演習	2	
		人間科学基礎実習	2	
		人間科学専門演習Ⅰ	2	
		人間科学専門演習Ⅱ	2	

区分	授業科目名	単位数	備考
共通科目	社会調査法共通教育	フィールド調査法特講	2
		エスノグラフィの分析と執筆	2
	キャリアデザイン	キャリアデザイン特講	2
	学系横断	未来共創フィールドスタディⅠ	1
		未来共創フィールドスタディⅡ	1
特別科目	公認心理師	心理実践実習Ⅰ	3
		心理実践実習Ⅱ	3
		心理実践実習Ⅲ	3
		心理実践実習Ⅳ	3

(注1) 「教育分野に関する理論と支援の展開」及び「保健医療分野に関する理論と支援の展開」は、「特講」として扱う。

(注2) 「司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開」及び「心の健康教育に関する理論と実践」は、「演習」として扱う。

別表2の2 高度国際性涵養教育科目

区分	授業科目名	単位数	備考
共通科目	言語	英語による国際コミュニケーションⅠ	2
		英語による国際コミュニケーションⅡ	2
	学系横断	人間科学国際特講Ⅰ	2
		人間科学国際特講Ⅱ	2
		人間科学国際特講Ⅲ	2
		人間科学国際特講Ⅳ	2
		人間科学国際特講Ⅴ	2
		人間科学国際特講Ⅵ	2
		英語による論文作成・研究発表演習	2
		International Course on Interdisciplinary Human Science	1
	人間科学未来共生	未来共生英語特定演習Ⅰ	1
		未来共生英語特定演習Ⅱ	1
		未来共生多言語特定演習	1
		Academic Reading	2

別表2の3 高度教養教育科目

区分	授業科目名	単位数	備考
共通科目	インターンシップ	インターンシップ等A	2
		インターンシップ等B	2
	学系横断	総合人間科学実習Ⅰ	2
		総合人間科学実習Ⅱ	2
	人間科学未来共生	マイノリティと共生	2
		コミュニティ・ラーニング特定演習	2
		公共サービス・ラーニング特定演習	2
		プロジェクト・ラーニング特定演習	2
	人文社会科学系オナー大学院プログラム	社会学共創フィールド実習	2

令和6年度入学者の人間科学研究科教育課程表（授業科目一覧表）

大阪大学人間科学研究科規程 別表3（後期課程授業科目表）

人間科学専攻

区分	授業科目名	単位数	備考	
専門教育科目	人間行動学講座			
	基礎心理学特別演習Ⅰ	2		
	基礎心理学特別演習Ⅱ	2		
	基礎心理学特別研究Ⅰ	2		
	基礎心理学特別研究Ⅱ	2		
	応用認知心理学特別演習Ⅰ	2		
	応用認知心理学特別演習Ⅱ	2		
	応用認知心理学特別研究Ⅰ	2		
	応用認知心理学特別研究Ⅱ	2		
	社会心理学特別演習Ⅰ	2		
	社会心理学特別演習Ⅱ	2		
	社会心理学特別研究Ⅰ	2		
	社会心理学特別研究Ⅱ	2		
	臨床死生学・老年行動学特別演習Ⅰ	2		
	臨床死生学・老年行動学特別演習Ⅱ	2		
	臨床死生学・老年行動学特別研究Ⅰ	2		
	臨床死生学・老年行動学特別研究Ⅱ	2		
	環境行動学特別演習Ⅰ	2		
	環境行動学特別演習Ⅱ	2		
	環境行動学特別研究Ⅰ	2		
	環境行動学特別研究Ⅱ	2		
	安全行動学特別演習Ⅰ	2		
	安全行動学特別演習Ⅱ	2		
	安全行動学特別研究Ⅰ	2		
	安全行動学特別研究Ⅱ	2		
	人間行動学フィールドワーク特別実習Ⅰ	2		
	人間行動学フィールドワーク特別実習Ⅱ	2		
	行動生態学講座			
	比較発達心理学特別演習Ⅰ	2		
	比較発達心理学特別演習Ⅱ	2		
	比較発達心理学特別研究Ⅰ	2		
	比較発達心理学特別研究Ⅱ	2		
	行動生理学特別演習Ⅰ	2		
	行動生理学特別演習Ⅱ	2		
行動生理学特別研究Ⅰ	2			
行動生理学特別研究Ⅱ	2			
行動統計科学特別演習Ⅰ	2			
行動統計科学特別演習Ⅱ	2			
行動統計科学特別研究Ⅰ	2			
行動統計科学特別研究Ⅱ	2			
生物人類学特別演習Ⅰ	2			
生物人類学特別演習Ⅱ	2			
生物人類学特別研究Ⅰ	2			
生物人類学特別研究Ⅱ	2			
比較行動学特別演習Ⅰ	2			
比較行動学特別演習Ⅱ	2			
比較行動学特別研究Ⅰ	2			

区分	授業科目名	単位数	備考	
専門教育科目	行動生態学講座	比較行動学特別研究Ⅱ	2	
		行動生態学フィールドワーク特別実習Ⅰ	2	
		行動生態学フィールドワーク特別実習Ⅱ	2	
	社会環境学講座	現代社会と社会理論特別演習Ⅰ	2	
		現代社会と社会理論特別演習Ⅱ	2	
		現代社会と社会理論特別研究Ⅰ	2	
		現代社会と社会理論特別研究Ⅱ	2	
		経験社会学特別研究Ⅰ	2	
		経験社会学特別研究Ⅱ	2	
		社会調査特別演習Ⅰ	2	
		社会調査特別演習Ⅱ	2	
		コミュニケーション社会学特別演習Ⅰ	2	
		コミュニケーション社会学特別演習Ⅱ	2	
		コミュニケーション社会学特別研究Ⅰ	2	
		コミュニケーション社会学特別研究Ⅱ	2	
		文化社会学特別演習Ⅰ	2	
		文化社会学特別演習Ⅱ	2	
		文化社会学特別研究Ⅰ	2	
		文化社会学特別研究Ⅱ	2	
		社会環境学フィールドワーク特別実習Ⅰ	2	
		社会環境学フィールドワーク特別実習Ⅱ	2	
		基礎人間科学講座	科学哲学・分析哲学特別演習Ⅰ	2
			科学哲学・分析哲学特別演習Ⅱ	2
	科学哲学・分析哲学特別研究Ⅰ		2	
	科学哲学・分析哲学特別研究Ⅱ		2	
	哲学と質的研究特別演習Ⅰ		2	
	哲学と質的研究特別演習Ⅱ		2	
	哲学と質的研究特別研究Ⅰ		2	
	哲学と質的研究特別研究Ⅱ		2	
	比較文明学特別演習Ⅰ		2	
	比較文明学特別演習Ⅱ		2	
	比較文明学特別研究Ⅰ		2	
	比較文明学特別研究Ⅱ		2	
	人類学特別演習Ⅰ		2	
	人類学特別演習Ⅱ		2	
	人類学特別演習Ⅲ		2	
	人類学特別研究Ⅰ		2	
	人類学特別研究Ⅱ		2	
	科学技術と文化特別演習Ⅰ		2	
	科学技術と文化特別演習Ⅱ		2	
	科学技術と文化特別研究Ⅰ		2	
	科学技術と文化特別研究Ⅱ	2		
	基礎人間科学フィールドワーク特別実習Ⅰ	2		
基礎人間科学フィールドワーク特別実習Ⅱ	2			
臨床教育学講座	教育人間学特別演習Ⅰ	2		
	教育人間学特別演習Ⅱ	2		
	教育人間学特別研究Ⅰ	2		
	教育人間学特別研究Ⅱ	2		

区分		授業科目名	単位数	備考
専門教育科目	臨床教育学講座	人間変容論特別演習Ⅰ	2	
		人間変容論特別演習Ⅱ	2	
		人間変容論特別研究Ⅰ	2	
		人間変容論特別研究Ⅱ	2	
		教育学特別演習Ⅰ	2	
		教育学特別演習Ⅱ	2	
		教育学特別研究Ⅰ	2	
		教育学特別研究Ⅱ	2	
		教育心理学特別演習Ⅰ	2	
		教育心理学特別演習Ⅱ	2	
		教育心理学特別研究Ⅰ	2	
		教育心理学特別研究Ⅱ	2	
		臨床心理学特別演習Ⅰ	2	
		臨床心理学特別演習Ⅱ	2	
		臨床心理学特別研究Ⅰ	2	
		臨床心理学特別研究Ⅱ	2	
		認知臨床心理学特別研究Ⅰ	2	
		認知臨床心理学特別研究Ⅱ	2	
		臨床教育学フィールドワーク特別実習Ⅰ	2	
		臨床教育学フィールドワーク特別実習Ⅱ	2	
	教育環境学講座	教育社会学特別演習Ⅰ	2	
		教育社会学特別演習Ⅱ	2	
		教育社会学特別研究Ⅰ	2	
		教育社会学特別研究Ⅱ	2	
		教育制度学特別演習Ⅰ	2	
		教育制度学特別演習Ⅱ	2	
		教育制度学特別研究Ⅰ	2	
		教育制度学特別研究Ⅱ	2	
		生涯教育学特別演習Ⅰ	2	
		生涯教育学特別演習Ⅱ	2	
		生涯教育学特別研究Ⅰ	2	
		生涯教育学特別研究Ⅱ	2	
		教育文化学特別演習Ⅰ	2	
教育文化学特別演習Ⅱ		2		
教育文化学特別研究Ⅰ		2		
教育文化学特別研究Ⅱ		2		
教育環境学フィールドワーク特別実習Ⅰ		2		
教育環境学フィールドワーク特別実習Ⅱ		2		
未来共生学講座		共生の人間学特別演習Ⅰ	2	
		共生の人間学特別演習Ⅱ	2	
	共生の人間学特別研究Ⅰ	2		
	共生の人間学特別研究Ⅱ	2		
	福祉社会論特別演習Ⅰ	2		
	福祉社会論特別演習Ⅱ	2		
	福祉社会論特別研究Ⅰ	2		
	福祉社会論特別研究Ⅱ	2		
	共生社会論特別演習Ⅰ	2		
	共生社会論特別演習Ⅱ	2		

区分		授業科目名	単位数	備考	
専門教育科目	未来共生学講座	共生社会論特別研究Ⅰ	2		
		共生社会論特別研究Ⅱ	2		
		共生行動論特別演習Ⅰ	2		
		共生行動論特別演習Ⅱ	2		
		共生行動論特別研究Ⅰ	2		
		共生行動論特別研究Ⅱ	2		
		共生教育論特別演習Ⅰ	2		
		共生教育論特別演習Ⅱ	2		
		共生教育論特別研究Ⅰ	2		
		共生教育論特別研究Ⅱ	2		
		未来共生学フィールドワーク特別実習Ⅰ	2		
		未来共生学フィールドワーク特別実習Ⅱ	2		
		グローバル共生学講座	国際協力学特別演習Ⅰ	2	
			国際協力学特別演習Ⅱ	2	
	国際協力学特別研究Ⅰ		2		
	国際協力学特別研究Ⅱ		2		
	多文化共生学特別演習Ⅰ		2		
	多文化共生学特別演習Ⅱ		2		
	多文化共生学特別研究Ⅰ		2		
	多文化共生学特別研究Ⅱ		2		
	地域創生論特別演習Ⅰ		2		
	地域創生論特別演習Ⅱ		2		
	地域創生論特別研究Ⅰ		2		
	地域創生論特別研究Ⅱ		2		
	コンフリクトと共生特別演習Ⅰ		2		
	コンフリクトと共生特別演習Ⅱ		2		
	コンフリクトと共生特別研究Ⅰ		2		
	コンフリクトと共生特別研究Ⅱ		2		
	グローバル共生学フィールドワーク特別実習Ⅰ		2		
	グローバル共生学フィールドワーク特別実習Ⅱ		2		
	共通科目		コンフリクトの人文科学	コンフリクトの人文科学特別講義Ⅰ	2
		コンフリクトの人文科学特別講義Ⅱ		2	
		高度副プログラム	社会における科学技術特別演習	2	
学系横断		総合人間科学特別実習Ⅰ	2		
		総合人間科学特別実習Ⅱ	2		
人間科学未来共生		未来共生ワークショップ特別演習	2		
		未来共生リーディング特別演習	2		
人文社会科学系 オナー大学院プログラム		社会学創概論	2		

全学の大学院学生対象に開設開講する授業科目・教育プログラムの案内

大学院横断教育科目

大学院横断教育科目とは、(1) コミュニケーションデザイン科目(高度教養・汎用力の基礎となる教育に関する授業科目)、(2) COデザイン科目(社会的課題に応じた高度汎用力を備えた人材育成のための教育に関する授業科目)、(3) 学際融合教育科目(複眼的視野を涵養するための教育に関する授業科目)の科目区分により構成し、開講されている科目です。

人間科学研究科では、大学院横断教育科目から修得した単位は、博士前期課程では高度教養教育科目又は自由選択枠の単位として修了要件単位に算入することができます。また、博士後期課程では、専門教育科目の選択科目の単位として修了要件単位に算入することができます。

コミュニケーションデザイン科目及びCOデザイン科目について

(1) 教育プログラムの目的

大阪大学は、高等教育における新しい教育の目標として〈高度汎用力〉の育成を掲げています。COデザインセンターは人をつなぎ、知識をつなぎながら、ともに創出する力を身につけるための学部・研究科横断型の新しい高度教養・高度汎用力育成プログラムの研究開発と教育にあたっています。

「コミュニケーションデザイン科目」は、対話することを通して、課題を発見し、ともにその解決をめざし、社会のなかで実践するための基礎的な教育プログラムとして学部生、大学院生を対象に開講されています。

また、「COデザイン科目」は、さまざまな現実の社会課題の解決を目指したアドバンスト・プログラムとして、より系統的に社会実践力を修養するための科目群として大学院学生を対象に開かれています。

(2) コミュニケーションデザイン科目及びCOデザイン科目の修得単位について

コミュニケーションデザイン科目及びCOデザイン科目が修了要件単位に算入できるか否かについては、各研究科によって取り扱いが異なりますので、履修に際しては、事前に指導教員や所属研究科の教務担当窓口にも必ず相談してください。

(3) 履修手続方法について

コミュニケーションデザイン科目とCOデザイン科目の履修登録は、全学で統一された「他部局科目の履修登録期間」内にKOAN(学務情報システム)から行ってください(<https://koan.osaka-u.ac.jp>)。

学際融合教育科目について

本学における横断型教育（学部・研究科の枠を超えた学び）の、より一層の充実を目指して、複眼的視野を涵養するための授業科目として「学際融合教育科目」を設置しています。

学際融合教育科目は、全学の大学院学生に開講していますので、興味のある方は是非履修してみてください。

※学際融合教育科目は、大学院横断教育科目の科目区分の一つとして開講しています。

詳細については、それぞれのシラバスを参照してください。

※履修登録は、全学で統一された「他部局科目の履修登録期間」内に KOAN（学務情報システム）から行ってください（<https://koan.osaka-u.ac.jp>）。

※大学院横断教育科目の単位認定についての取り扱いは、研究科によって対応が異なります。

修了要件への算入可否については、事前に指導教員や所属研究科の教務担当窓口を確認してください。

詳細については、以下の URL もしくは QR コードからご参照ください。

<https://www.osaka-u.ac.jp/ja/education/fukusenkou/gakusai>



大学院副専攻プログラム、大学院等高度副プログラムについて

大阪大学では、大学院教育における高度教養教育の更なる展開に向けて導入された「学際融合・社会連携を指向した双翼型大学院教育システム（Double-Wing Academic Architecture, DWAA）」を推進しており、その一環として、大学院に入学した学生を中心に、学生が所属する主専攻の教育課程以外の教育プログラムを履修できる「**大学院副専攻プログラム**」、「**大学院等高度副プログラム**」を提供しています。

「大学院副専攻プログラム」、「大学院等高度副プログラム」は、学生が所属する主専攻の教育課程以外の内容を学んだり、あるいは主専攻の専門性を生かすための関連分野を学んだりするための教育プログラムです。主専攻の学修と並行して、用意されたプログラム科目を効果的に受講することで、学際的・俯瞰的な視点や複眼的視野を養うことを目的としています。

どちらのプログラムも、教育目標に沿った一定のまとまりのある授業科目で構成されており、各プログラムが定める要件を満たすことで、当該プログラムの修了認定証が交付されます。

なお、2023年度は「大学院副専攻プログラム」24プログラム、「大学院等高度副プログラム」44プログラムが実施されます。

また、「大学院等高度副プログラム」のうち、一部のプログラムは「**大学院科目等履修生高度プログラム**」として、社会人に対しても提供されています。

各プログラムの詳細については、以下の URL もしくは QR コードからご参照ください。

※大学院の新入生にはプログラムのパンフレットを別途配布します。

<https://itgp.osaka-u.ac.jp/programs/list/advanced/>



マルチリンガル・エキスパート養成（MLE）プログラム

大阪大学では、多言語に精通し、現代世界の喫緊の課題に取り組む専門的な知識を備え、グローバルに活躍できる人材を養成することを目的として、マルチリンガル・エキスパート養成プログラム（学部プログラム・大学院プログラム）を開設しています。

人間科学部の学生は、外国語学部が開設する専門教育レベルの語学・文化学等に関する授業を体系的に学修することができます。募集対象は2年次・3年次の正規学生で、履修生は選考によって決定されます。プログラムを修了すると、学部プログラム修了認定証が交付されます。

人間科学研究科の学生は、人文学研究科が開設する専門教育レベルの語学・文化学等に関する授業を、大阪大学大学院副専攻プログラムとして、体系的に学修することができます。募集対象は博士前期課程学生で、学部プログラム修了生以外の履修生は選考によって決定されます。プログラムを修了すると、大学院副専攻プログラム修了認定証が交付されます。

本プログラムの履修申請手続き、カリキュラム内容の詳細は下記ホームページを検索・参照してください。

マルチリンガル・エキスパート養成プログラム

<http://www.mle.osaka-u.ac.jp>

履修・試験・授業等に関すること

学期の区分及び名称について

大阪大学では1年を4つに区分する「4学期制」を採用しています。各学期の名称及び始期は次のとおりです。授業開講期間は1学期あたり8週となります。

- ・春学期：4月1日
- ・夏学期：年度毎に定める（6月中旬）
- ・秋学期：10月1日
- ・冬学期：年度毎に定める（12月初旬）

【令和6年度 人間科学部・人間科学研究科】

（注）令和7年度以降はKOAN掲示板等でお知らせします。

春学期： 4月1日 ～ 6月11日	夏学期： 6月12日 ～ 9月30日
秋学期： 10月1日 ～ 12月 2日	冬学期： 12月 3日 ～ 3月31日

授業科目の分類及び名称について

開設する授業科目は、開講する期間により次のとおり分類します。

- （1）学期の区分ごとに開講する授業科目：ターム科目
（開講する期間は、春、夏、秋、冬学期となります。）
- （2）春学期・夏学期（秋学期・冬学期）の区分ごとに開講する授業科目：セメスター科目
（開講する期間は、春・夏学期、秋・冬学期となります。）
- （3）通年にわたり開講する授業科目：通年科目
（開講する期間は、春～冬学期となります。）
- （4）特定の期間に集中開講する授業科目：集中講義科目

人間科学部・人間科学研究科の場合、ほとんどの授業科目が（2）のセメスター科目として開講されます。なお、一部の授業科目は（1）のターム科目、または（4）の集中講義科目として開講されます。

集中講義について

人間科学部が開講する授業科目のうち、主に3・4年次に担当する授業科目の一部については、夏季休業中の特定期間を3つのゾーンに区分する中で、集中講義科目として開講します。集中講義の日程及びその開講科目は学生に配付する時間割表及びKOAN掲示板でお知らせします。

【令和6年度 人間科学部・人間科学研究科集中講義】

（注）令和7年度以降はKOAN掲示板等でお知らせします。

学 期	ゾ ーン	期 間
夏学期	A	8月26日（月）～ 8月30日（金）
	B	9月 2日（月）～ 9月 6日（金）
	C	9月 9日（月）～ 9月13日（金）

授業時間について

授業時間は次のとおりです。ほとんどの授業科目は時限単位で開講されます。

第1時限		第2時限		第3時限		第4時限		第5時限		第6時限
8:50	休 み	10:30	休 み	13:30	休 み	15:10	休 み	16:50	休 み	18:30
10:20		12:00		15:00		16:40		18:20		20:00

授業時間割表及びシラバスについて

翌年度に開講する授業科目の授業時間割表及びシラバスについては、前年度3月末の時点で確定します。授業時間割表は人間科学研究科ホームページに掲載します。シラバスはKOANから参照してください。

人間科学研究科ホームページ シラバス/時間割掲載ページ

学 部 https://www.hus.osaka-u.ac.jp/ja/students/syllabus_undergraduate.html

大学院 https://www.hus.osaka-u.ac.jp/ja/students/syllabus_graduate.html

授業科目の履修登録・履修取消・変更登録について

学生は、履修方法、履修指針、教員の指導等に基づき、シラバス等を参考とし、自ら履修計画を立てて授業科目の選択履修を行わなければなりません。授業科目を履修するためには指定する期限までに、KOAN（学務情報システム）により履修登録を行う必要があります。

なお、履修登録に関する留意事項は次のとおりです。

- (1) 同一時間に開講される科目は、重複して履修登録できません。
- (2) 履修登録をしていない科目については試験を受けることができません。
- (3) 履修科目の追加、変更及び取消は、指定された期間内に行わなければなりません。
- (4) 全学共通教育科目及び他学部等開講科目の履修登録については、人間科学部開講科目とは登録期間等が異なります。
- (5) 他学部等開講科目の履修登録について疑問がある場合は、当該科目を開講する学部等の教務担当係へ確認してください。

【令和6年度 人間科学部・人間科学研究科開講科目の履修登録等期間】

(注) 令和7年度以降はKOAN掲示板等でお知らせします。

開講期間（科目分類）	授業開始日	履修登録期間	履修登録変更期間	履修登録取消期間
春～冬学期（通年科目）	4/10(水)	4/1(月) 0:00 ～4/17(水) 13:00	6/12(水) 9:30 ～6/18(火) 16:30	4/23(火) 9:30 ～4/30(火) 16:30
春～夏学期(セメスター科目)	4/10(水)			
春学期（ターム科目）	4/10(水)			
夏学期（ターム科目）	6/12(水)			
夏季集中講義	26頁参照			
秋～冬学期(セメスター科目)	10/1(火)	9/24(火) 9:30 ～10/8(火) 13:00	12/3(火) 9:30 ～12/9(月) 16:30	10/15(火) 9:30 ～10/21(月) 16:30
秋学期（ターム科目）	10/1(火)			
冬学期（ターム科目）	12/3(火)			

グレード・ポイント・アベレージ（GPA）制度について

大阪大学では、平成26年度学部入学者からGPA制度を導入しています。

GPA制度は、学修の状況及び成果を示す指標としてのGPAを算出することにより、学生の学習意欲の向上及び適切な修学指導に資するとともに、教育の国際化を促進することを目的に行われています。

1. GPについて

成績の評価及び各評価に与えられるGPは、以下のとおり定めています。

成績の評価	S (90点以上)	A (80点以上 90点未満)	B (70点以上 80点未満)	C (60点以上 70点未満)	F (60点未満)
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0

2. GPAについて

当該学期におけるGPA（以下「学期GPA」という。）及び全在学期間におけるGPA（以下「通算GPA」という。）があります。学期GPA及び通算GPAを算出する計算式は以下のとおりです。（GPAの算出は、小数点第3位以下を切り捨てるものとします。）

【学期GPAを算出する計算式】

$$\text{学期GPA} = \frac{\text{(当該学期に評価を受けた各授業科目で得たGP} \times \text{当該授業科目の単位数)の合計}}{\text{当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計}}$$

【通算GPAを算出する計算式】

$$\text{通算GPA} = \frac{\text{(各学期に評価を受けた各授業科目で得たGP} \times \text{当該授業科目の単位数)の合計の総和}}{\text{(各学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計)の総和}}$$

3. GPA算出の対象科目について

教養教育系科目、専門教育系科目及び国際性涵養教育系科目のうち、大阪大学学部学則第10条の7第2項に基づく試験の成績の評価を行う授業科目であって、人間科学部において卒業要件に算入できる授業科目とします。

ただし、次の各号に該当する授業科目については、GPAの計算から除くものとします。

- (1) 本学在学中に他の大学、専門職大学若しくは短期大学（専門職短期大学を含む。以下同じ）において履修した授業科目又は外国の大学（専門職大学に相当する外国の大学を含む。以下同じ）において履修した授業科目
- (2) 入学前に本学、他の大学、専門職大学若しくは短期大学において履修した授業科目又は外国の大学若しくは短期大学において履修した授業科目（科目等履修生として履修した授業科目を含む）
- (3) 本学在学中に大学以外の教育施設等における学修（短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修）を本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えられた授業科目

- (4) 大阪大学学部学則第14条から第15条までの規定による編入学等に伴い、本学の授業科目を学修したものと同等以上の学力があると認定された授業科目
- (5) 前各号に掲げるもののほか、各学部学科が別に定める授業科目

4. 「履修取消」について

学生が学期の途中で授業科目の履修を中止したい場合は、学期ごとに定められた履修取消期間内に限り、当該授業科目に係る履修登録を取り消すことができます。履修登録を取り消した授業科目については、学期GPA及び通算GPAの算出から除外します。なお、履修を取消した授業科目については、GPAから除く授業科目となり、学籍情報システム(KOAN)では「W」(Withdrawal)で表示されます。

大阪大学ホームページ/グレード・ポイント・アベレージ(GPA)制度
https://www.osaka-u.ac.jp/ja/education/academic_reform/gpa

試験について

1. 原則として、試験は当該授業が開講される学期末に実施します。
2. 履修登録をしていない科目の試験を受けることはできません。
3. レポートをもって試験に代える科目については、提出条件及び期限を厳守してください。
4. 試験の際には、試験監督者の指示に従うほか、次のことに注意してください。
 - (1) 受験者は定刻までに、試験室に入室してください。
 - (2) 解答用紙は、答案記入の有無にかかわらず、提出してください。

試験等(レポート試験等を含む)における不正行為について

試験等(レポート試験等を含む)において、下記にあげる行為等を行った場合は不正行為とみなし、以下の表のとおり、履修した人間科学部・人間科学研究科が開講する授業科目全ての成績評価を無効とします。

- (1) 持ち込み(使用)を許可された教科書、ノート、辞書等以外のものを使用した場合
- (2) カンニングペーパーの使用等、カンニングとみなされる行為を行った場合
- (3) 代人受験とみなされる行為を行った場合
- (4) その他試験監督者の指示に従わない場合
- (5) 授業担当教員が成績評価の対象として求めるレポート等の提出物において、他人の論文、著作、レポート、ウェブサイト、インターネット投稿、講義配布物(公表・未公表を問わない。)の一部または全部を剽窃した場合

不正行為を行った学期	無効となる成績評価の学期
春学期	春学期、夏学期及び春～夏学期の成績評価
夏学期	
春～夏学期	
秋学期	秋学期、冬学期及び秋～冬学期の成績評価
冬学期	
秋～冬学期	

成績評価に関する疑義申し立てについて

成績評価が筆記試験、レポート提出等の結果や出席状況などから判断して、明らかに誤記入（採点ミス、登録ミス）によるものと思われる場合は、成績評価に関する疑義申し立てを行うことができます。なお、成績評価の理由、根拠に関する申し立て及び成績評価についての特別な配慮を求めるとは受け付けません。

（疑義の申し立てが可能な期間）

疑義申し立てを行う授業科目の成績発表日から約1週間（土曜・日曜・祝日を除く）の期日で設定される受付期限までとします。（ただし、その他やむを得ない事情があると認められた場合は、この限りではありません。）

（疑義の申し立て手続き）

KOAN掲示板により通知される手順により、「成績評価に関する疑義申立書（人間科学部・人間科学研究科）」を提出してください。

授業・試験の欠席について

下記（別表）にあげる事由またはその他のやむを得ない事由により、授業及び試験を欠席した場合は、「欠席・試験欠席届」に医師の診断書または事実の確認できる証明書等を添付のうえ、教務係に提出し、許可を得た後、授業担当教員にその写しを提出してください。授業担当教員の判断により、一定の配慮を行います。

ただし、クラブ活動等の課外活動は、やむを得ない事由に該当しません。

（別表）

欠席事由	配慮を要する期間 （授業等に出席することができない範囲）
学校感染症（学校保健安全法施行規則第18条に規定する感染症）を罹患したことにより出席停止の措置を受けた場合	学校保健安全法施行規則第19条に規定する出席停止の期間
親族（2親等以内）が死亡した場合	配偶者・1親等…通夜、葬儀などのために要した日数（連続7日以内）、2親等…通夜、葬儀などのために要した日数（連続3日以内）
「裁判員の参加する刑事裁判に関する法律」に基づく裁判員の選任手続きのため及び裁判員の職務に従事するため裁判所に出頭した場合	裁判所に出頭した日
居住地及び通学経路に係る特別警報が発令された場合	特別警報が発令された日
教職課程の「教育（養護）実習」及び「介護等の体験」に参加する場合	「教育（養護）実習」及び「介護等の体験」の期間

- メディア授業（定期試験を含む。以下同じ。）については、この取扱いを適用せず、気象警報の発表時等においても原則として授業を実施します。
- ただし、メディア授業の実施が困難な事象が発生した場合は、授業開講部局の判断により休講とすることがあります。その場合は、KOAN等でお知らせします。
- 学生の皆さんの居住地又は通学経路にある地域に暴風警報又は特別警報が発表された場合、震度5強以上の地震が発生した場合において、避難又はその準備をしなければならない等やむを得ない事情により、メディア授業を受講できない場合には、履修上不利とにならないよう配慮しますので、人間科学部/研究科授業科目については人間科学研究科教務係、他学部/他研究科開講科目の授業は当該科目を開講する学部等の教務担当係に申し出てください。

1. 気象警報発表時の取扱い

大阪府「豊中市・吹田市・茨木市・箕面市のいずれか又はこれらの市を含む地域」に「暴風警報」、又は「特別警報*」が発表された場合、授業を休講とします。

なお、当該発表が授業開始後の場合は、次の時限の授業から休講とします。

*「特別警報」については大雨、暴風、暴風雪、大雪など内容を限定せず、すべての「特別警報」を対象とします。

2. 公共交通機関の運休時の取扱い

災害により、通学路線のうち以下の公共交通機関のいずれかが運行の休止又は運転の見合せ（以下、「運休」という。）となった場合（一部区間の運休を含む）、当該キャンパスで開講する授業を休講とします。

- ①豊中キャンパス 阪急電車（宝塚線：大阪梅田ー宝塚間）又は大阪モノレール（全線）
- ②吹田キャンパス 阪急電車（千里線：大阪梅田／天神橋筋六丁目ー北千里間）又は大阪モノレール（全線）
- ③箕面キャンパス 大阪メトロ（御堂筋線（北大阪急行路線含む）：梅田ー千里中央間）又は大阪モノレール（全線）

ただし、事故等による一時的な運転見合せについては、休講とはしません。

3. 気象警報又は公共交通機関運休の解除時の取扱い

気象警報又は公共交通機関の運休が解除された場合の取扱いは次のとおりとします。

警報・運休解除時刻	授業の取扱い
午前6時以前に解除された場合	全日授業実施
午前9時以前に解除された場合	午後授業実施
午前9時を経過しても解除されない場合	全日授業休業

注1 連合小児発達学研究科については、別途当該研究科からメールにより取扱いを連絡します。

注2 解除の確認は、テレビ・ラジオ・インターネット等の報道によるものとします。

4. 地震発生時の取扱い

大阪府「豊中市・吹田市・茨木市・箕面市」のいずれかで震度5強以上の地震が発生した場合、その日の授業を休講とします。ただし、地震の発生が午後5時15分以降の場合は、翌日の授業も休講とします。

また、地震が当該地域以外で発生した場合又は震度5強未満の場合は、公共交通機関の運行状況に応じて対応することとし、上記2の取扱いに従うこととします。

5. 災害に伴う避難勧告又は避難指示発令時の取扱い

大阪府「豊中市・吹田市・茨木市・箕面市」のいずれかの市から、災害に伴う避難勧告又は避難指示（以下「避難勧告等」という。）が発令された地域（以下「避難地域」という。）に所在する部局においては、授業を休講とする場合がありますので、部局からの連絡に従ってください。

6. その他

- (1) この取扱いに該当しないため授業を実施する場合であっても、学生の皆さんの居住地又は通学経路にある地域で、上記1と同様の気象警報が発表された場合、上記4と同様の地震が発生した場合、上記2以外の公共交通機関が運休した場合等やむを得ない事情により授業を欠席した場合は、履修上不利益とならないよう配慮しますので、授業開講部局又は所属部局の教務担当係に申し出てください。
- (2) 気象警報の発表、公共交通機関の運休又は避難勧告等の発令が事前に予想される場合、又は緊急に休講措置の必要が生じた場合は、大学ホームページ又はKOANIにおいて通知します。

研究指導・修士論文・博士論文に関すること

研究計画・研究指導計画書及び研究概要報告書の提出について

大学院生は、指導教員と相談して、毎年度当初に当該年度の研究計画・研究指導計画書を作成します。また、当該年度終わりに研究概要報告書を作成します。詳細は、別途、教務係から教員に通知します。

副指導教員について

本研究科では、指導教員の他に副指導教員を設けて、複数の教員が研究指導等に当たることになっています。研究計画・研究指導計画書及び研究概要報告書の内容は学生から副指導教員に報告してください。

修士論文の提出について

博士前期課程を修了するためには、修業年限の2年以上在学し、大阪大学人間科学研究科規程で定める履修方法により必要な単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければなりません。修士論文は、指導教員等による指導を仰ぎながら、その準備並びに執筆を進めていきます。修士論文の提出に係る手続き事項は教務係からKOAN掲示板によりお知らせします。なお、概要は次のとおりです。

- ①博士前期課程2年次の修了予定者は、あらかじめ指導教員の承認を得て論文題目を決定し、所定の期限までに教務係に修士論文題目を提出してください。なお、期限に遅れた場合、修士論文は受理しません。

＜提出期限＞	修士論文題目提出	1 1月中旬の指定する期日及び時間
	修士論文提出	1 月上旬の指定する期日及び時間

(注) 修士論文提出の際には、本人及び指導教員の承認印が必要です。

- ②論文の体裁及び枚数等は指導教員から指示されます。論文は散逸せぬよう綴じ込み、表紙に論文提出票を付してください。
- ③論文提出のための各種所定用紙はKOAN掲示板により配付します。
なお、修士論文を提出できない博士前期課程2年次の学生は、論文題目届の提出期限までに「修士論文提出延期願」を提出しなければなりません。

博士論文の提出について

博士後期課程を修了するためには、修業年限の3年以上在学し、大阪大学人間科学研究科規程で定める履修方法により必要な単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査及び最終試験に合格しなければなりません。博士論文は、指導教員等による指導を仰ぎながら、その準備並びに執筆を進めていきます。博士論文の提出に係る手続き事項は教務係からKOAN掲示板によりお知らせします。なお、概要は次のとおりです。

- ①博士後期課程3年次の修了予定者は、あらかじめ指導教員の承認を得て論文題目を決定し、所定の期限までに教務係に博士論文題目を提出してください。なお、期限に遅れた場合、博士論文は受理しません。

＜提出期限＞	博士論文題目提出	1 1月中旬の指定する期日及び時間
	博士論文提出	1 2月上旬の指定する期日及び時間
	博士論文公聴会〔公開〕	1月～2月
	(注) 博士論文提出の際には、本人及び指導教員の承認印が必要です。	

- ②論文の体裁及び枚数等は指導教員から指示されます。論文は散逸せぬよう綴じ込んでください。

- ③論文提出のための各種所定用紙はKOAN 掲示板により配付します。

博士後期課程に休学を除き3年以上在学し、次に該当する者は、下記の時期でも博士論文を提出することができます。(単位修得退学後3年以内の者を含む)

○所定の単位を修得していること

○3年以上の必要な研究指導を受けていること(研究計画・研究指導計画書及び研究概要報告書が提出されていること)

＜提出期限＞	博士論文題目提出	4月中旬の指定する期日及び時間
	博士論文提出	5月上旬の指定する期日及び時間
	博士論文公聴会〔公開〕	6月～7月
	(注) 博士論文提出の際には、本人及び指導教員の承認印が必要です。	

修士学位授与までのスケジュール

博士前期課程

年次	時期	学 生	大学・指導教員等
1年	4月～(通年)	修了要件科目の履修	
	4月	研究計画・研究指導計画書の作成	指導教員の閲読・認定
	2月中旬	研究概要報告書の提出	指導教員の閲読・認定
2年	4月～(通年)	修了要件科目の履修	
	4月	研究計画・研究指導計画書の作成	指導教員の閲読・認定
	1 1月中旬	修士論文題目届の提出	指導教員の閲読・認定
	1月上旬	修士論文の提出	指導教員の閲読・認定
	1月下旬		研究科委員会で審査委員を決定
	2月	修士論文考査(各学系で実施)	審査委員による審査
	2月中旬	研究概要報告書の提出	指導教員の閲読・認定
	3月		研究科委員会で修了認定
	3月下旬		学位記授与

※各提出期限は教務係から通知

博士学位授与までのスケジュール

博士後期課程

年次	時期	学生	大学・指導教員等
1年	4月～(通年)	修了要件科目の履修	
	4月～5月下旬	研究計画・研究指導計画書の作成	指導教員の閲読・認定
	2月中旬	研究概要報告書の提出	指導教員の閲読・認定
2年	4月～(通年)	修了要件科目の履修	
	4月～5月下旬	研究計画・研究指導計画書の作成	指導教員の閲読・認定
	2月中旬	研究概要報告書の提出	指導教員の閲読・認定
3年	4月～(通年)	修了要件科目の履修	
	4月～5月下旬	研究計画・研究指導計画書の作成	指導教員の閲読・認定
	1 1月中旬	博士論文題目届の提出	在籍期間、修得単位等の確認 指導教員の閲読・認定
	1 2月上旬	博士論文の提出	指導教員の閲読・認定
	1 2月下旬		研究科委員会で審査委員を決定
	1月～2月	博士論文公聴会〔公開〕 (各学系で実施)	審査委員による審査
	2月中旬	研究概要報告書の提出	指導教員の閲読・認定
	2月～3月		研究科委員会で学位授与判定
	3月下旬		学位記授与
	3月	博士論文概要論文公刊	「人間科学研究科紀要」に概要論文を掲載

※各提出期限は教務係から通知

博士後期課程に休学を除き3年以上在学し、次に該当する者の学位申請スケジュール

(単位修得退学後3年以内の者を含む)

○所定の単位を修得していること

○3年以上の必要な研究指導を受けていること(研究計画・研究指導計画書及び研究概要報告書が提出されていること)

時期	学生	大学・指導教員等
4月中旬	博士論文題目届の提出	指導教員の閲読・認定
		課程博士論文提出資格の確認
5月上旬	博士論文の提出	指導教員の閲読・認定
5月下旬		研究科委員会で審査委員を決定
6月～7月	博士論文公聴会〔公開〕(各学系で実施)	審査委員による審査
9月		研究科委員会で学位授与判定
9月下旬		学位記授与
1 1月中旬	博士論文題目届の提出	指導教員の閲読・認定
		課程博士論文提出資格の確認
1 2月上旬	博士論文の提出	指導教員の閲読・認定
1 2月下旬		研究科委員会で審査委員を決定
1月～2月	博士論文公聴会〔公開〕(各学系で実施)	審査委員による審査
2月～3月		研究科委員会で学位授与判定
3月下旬		学位記授与
3月	博士論文概要論文公刊	「人間科学研究科紀要」に概要論文を掲載

令和6年度（2024年度）

大阪大学人間科学部
大阪大学大学院人間科学研究科

修学・学生生活関連ガイド

修学・学生生活等における諸事項

学生に対する通知・連絡について

学生に対する重要連絡は原則としてKOAN（学務情報システム）及び学内の掲示板によって行いますので、毎日掲示板を見るよう習慣づけてください。

連絡には授業の休講・補講や学費免除・各種奨学金申請等の事項も含まれます。これらの通知を見落とししたことで生じる不都合・不利益は全て学生本人の責任となりますので注意してください。

(1) KOAN（学務情報システム）

「マイハンダイ」(<https://my.osaka-u.ac.jp>) から自分の大阪大学個人 ID とパスワードでログインし、「KOAN」アイコンをクリックしてください。

※ KOAN からのメールによる連絡について

- ・ KOAN からの特に重要な連絡は、大阪大学から全学生に配付されているメールアドレス（u*****@ecs.osaka-u.ac.jp）に送信されます。
- ・ メールは KOAN サイト上から確認するほか、スマートフォンやパソコンのメールアドレスに転送することが可能ですので、必ず転送設定をしましょう。また、転送先のメールアドレスを使わなくなった場合は、その都度、速やかに使用しているメールアドレスへの転送を再設定する必要があります。
（詳細はマイハンダイから「KOAN（もっと詳しく）のFAQ 日本語版（学生）」を参照してください。）

※ KOAN による住所・連絡先登録について

- ・ 緊急連絡や書類送付の必要がある場合は、上記のほか、電話、メール、郵送等により連絡を行うことがありますので、登録情報に変更があった場合は速やかに登録内容を修正しましょう。（KOAN サイト上から簡単に変更が可能です。）

(2) 学内掲示板

○本館1階：大学全体にかかる通知、人間科学研究科が主催する各種イベントの案内

○本館2階：授業実施関係、行事予定、その他

○東館2階：各種案内掲示

○国際交流室（本館2階）：留学生関係、海外留学・奨学金関係

○学生支援室（本館2階）：就職・進学・インターンシップ関係

*学系独自の掲示板もあります。（行動：3階、教育：4階、社会・人間：5階）

*他学部・他研究科の授業科目等の通知については、当該学部・研究科の掲示によります。

学生証等について

学生証は本学の学生であることを証明するものであるだけでなく、証明書自動発行機、図書館（室）の利用、学内各窓口での提示等にも使用します。通学定期券発行控と共に所定のケースに収納し、汚損・破損・紛失しないように大切に取扱い、登校の際は必ず携帯するとともに、次の事項に留意してください。

- ① 学生証の有効期限は修業年限（学部生—4年、第3年次編入学生—2年、博士前期課程学生—2年、博士後期課程学生—3年）までです。修業年限を超えて在学する場合は年度単位で再発行します。
- ② 通学定期乗車券発行控は毎年度当初に更新しますので、通学定期券を購入前に教務係で受領してください。
- ③ 学生証及び通学定期乗車券発行控は他人に貸与、または譲渡してはいけません。
- ④ 学生証及び通学定期乗車券発行控の不正使用をしてはいけません。万が一、不正使用が発覚した場合には厳正に対処します。
- ⑤ 学生証は定期試験の際や、各種証明書等の申し込み、証明書自動発行機の利用、その他本学職員に請求された時は、必ず提示してください。
- ⑥ 学生証の記載内容に変更が生じた場合には、直ちに教務係に届け出てください。
- ⑦ 学生証を紛失または汚損・破損・磁気不良により使用できなくなった場合は各キャンパスの窓口（吹田キャンパス：大阪大学本部棟地下1階 教育・学生支援部教育企画課学務情報係、豊中キャンパス：学生交流棟2階豊中学生センター、箕面キャンパス：外国学研究講義棟2階箕面学生センター）で再発行等の手続きを行ってください。
- ⑧ 通学定期乗車券発行控を紛失した場合は教務係に申し出てください。なお、紛失した学生証、通学定期乗車券発行控が見つかったときは、直ちに教務係に返付してください。

学籍に関する変更及び海外渡航等に関する届け出について

学籍に関する変更及び海外渡航等に関する届け出は次のとおりです。各所定様式については教務係で配付します。なお、*を付した届け出は、別の項に詳細を掲載しています。

提出先：教務係

提出書類等	提出等期限	備考
* 休学願	異動希望日を含む月の前々月の20日（休日の場合は直後の教務係開室日）まで【厳守】	「指導教員所見（様式）」を併せて提出すること。 ※理由によっては別途、証拠書類等の提出が必要。
復学願	異動希望日を含む月の前々月の20日（休日の場合は直後の教務係開室日）まで【厳守】	※理由によっては別途、証拠書類等の提出が必要。
復学届	復学年月日を含む月の前々月の20日（休日の場合は直後の教務係開室日）まで【厳守】	※理由によっては別途、証拠書類等の提出が必要。
* 退学願	異動希望日を含む月の前月の20日（休日の場合は直後の教務係開室日）まで【厳守】	
改姓（改名）・転籍届	その都度（速やかに提出）	※別途、証拠書類等の提出が必要。
本人、保護者の住所、電話番号等の変更	その都度（速やかにKOANで変更登録）	大学から重要な電話（メール）連絡・郵送等を行うことがあるので必ず登録を行うこと。 ※手続きを怠ったことにより連絡等を受けられなかったことに伴う不利益は全て学生本人の責任となります。
* 海外活動届及び海外渡航届	渡航日の3カ月以上前	留学や調査研究等で海外に渡航する場合は必ず相談すること。また、必ず「海外渡航届システム」 (https://www.abroad.icho.osaka-u.ac.jp/system/) に入力するとともに、「たびレジ（外務省海外旅行登録）」 (https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/)にも登録すること。
一時帰国届（留学生のみ）	帰国日の1週間以上前	留学生は、一時日本を離れるときは、短期・長期に関わらず提出してください。また、必ず「海外渡航届システム」 (https://www.abroad.icho.osaka-u.ac.jp/system/) に入力すること。
* 長期履修申請		大学院生のみ対象（申請条件あり）

(1) 在学年限及び休学（可能）期間

- ① 大阪大学学部学則に基づき、学部の在学年限は、休学期間を除き、8年（3年次編入学生は4年）と定められています。また、休学（可能）期間は通算で4年（3年次編入学生は2年）と定められています。
- ② 大阪大学大学院学則により、博士前期課程の在学年限は休学期間を除き4年と定められています。また、休学（可能）期間は通算で2年と定められています。
- ③ 大阪大学大学院学則により、博士後期課程の在学年限は休学期間を除き5年と定められています。また、休学（可能）期間は通算で3年と定められています。

(2) 休学

休学を希望する者は、次の点に留意のうえ所定の手続きにより、教務係を通じて学部長・研究科長に休学願を提出し許可を得てください。

- ① 病気、その他やむを得ない理由で3ヶ月以上修学できない場合は、その学年の終わりまで休学をすることができます。なお、実際に休学した期間は、在学年数には算入されません。
- ② 人間科学部・人間科学研究科では、国内外での調査研究を理由とする休学は認めていません。
- ③ 未納の授業料がある場合には休学は認められません。
- ④ 休学期間中にその事由が消滅した場合、復学を願い出ることができます。なお、休学期間の満了により復学となる場合も「復学届」の提出をもってその意思を申し出る必要があります。

(3) 退学

退学を希望する者は、次の点に留意のうえ所定の手続きにより、教務係を通じて学部長・研究科長に退学願を提出し許可を得てください。

- ① 未納の授業料がある場合には退学は認められません。
- ② 在学年限の満了により以降在籍できない場合において、「退学願」が期限までに提出されない場合には、在学年限満了日をもって身分喪失とします。

長期履修制度について（大学院生のみ）

長期履修制度とは、大学院学生が職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修して課程を修了することができる制度です。

申請対象者及び長期履修可能年数は次のとおりです。長期履修を申請する場合の在学年限は、博士前期課程は4年、博士後期課程は5年を限度とし、学年の始めから開始となります。申請の可否は審査により決定します。また、既に長期履修を許可された者で、事情により期間の**変更**を希望する者は期間変更申請を行う必要があります。

長期履修制度の申請等に関することは、KOAN 掲示板により通知を行いますが、詳細は教務係に問い合わせてください。

<申請対象者>

下記事由により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することが認められた者。ただし、各課程最終学年の者を除きます。

- (1) 定まった職業を有する者（一つの勤務場所において週30時間以上の就労者に限る。）
- (2) 出産・育児・介護・病気や障がいに伴う療養等を行う必要のある者

証明書の交付等について

本学では、証明書自動発行機により、学割証・在学証明書・健康診断証明書・成績証明書・卒業（修了）見込証明書・卒業（修了）証明書（学内の内部進学者のみ）が発行されます。なお、発行の際には学生証が必要です。

◆証明書自動発行機で発行可能な証明書

キャンパス	設置場所		台数	利用時間（月～金曜日） 祝日、年末・年始を除く
豊 中	全学教育推進機構管理・講義棟（A棟）	2階教務係前	1台	8：30～17：00
	豊中学生センター学生交流棟	2階ホール	2台	8：30～17：00
吹 田	医学部医学科共通棟	1階玄関	1台	8：30～17：00
	工学部管理棟U1M棟	1階教務課横	2台	8：30～17：00
	吹田学生センターICホール	1階	1台	8：30～17：00

※豊中、吹田地区のみ掲載

◆証明書自動発行機で発行可能な証明書

証明書の種類	発行対象
（学部・大学院共通） 学割証（1日3枚、年間10枚まで） 在学証明書 健康診断証明書 （学 部） 成績証明書 卒業見込証明書（最終年次の学生のみ） （大学院） 成績証明書 修了見込証明書（博士前期課程最終年次の学生のみ）	在学する課程
（学 部） 成績証明書 卒業証明書 （大学院） 成績証明書（博士前期（修士）） 修了証明書（博士前期（修士））	卒業（修了）した課程 本学学部を卒業し、引き続き本学の大学院に入学した者 本学研究科博士前期課程を修了し、引き続き博士後期課程に進学した者

* 大学に英語氏名の登録をしている学生については、英語版の証明書も出力できます。

* 上記以外の証明書は教務係窓口申請してください。証明書の種類（英文証明書、教職単位の修得に関する証明書等）や申請の時期などにより、交付までに時間を要する場合がありますので、余裕をもって申請してください。

オフィス・アワーについて

人間科学部・人間科学研究科ではオフィス・アワー（授業内容等に関する学生の質問等に応じるための時間として、教員があらかじめ示す時間帯）を設定し、その時間帯であれば、学生は基本的に予約なしで研究室を訪問することができます。

人間科学研究科ホームページ オフィス・アワー

<https://www.hus.osaka-u.ac.jp/ja/students/officehour.html>

卒業・修了後の進路について

卒業・修了年次の学生（現在職を持っている方で、卒業・修了後もその職を継続される方及び博士後期課程にあっては単位修得退学者も対象）は、「進路・就職報告システム」で必ず進路情報・就職先の情報を登録しなければなりません。報告期限（その後の更新は可能）は、原則卒業論文、修士学位論文、博士学位論文の題目届提出期限の期日としています。

※報告期限までに入力できない場合は、学位授与式までには必ず入力を済ませてください。

気象警報発令時における学内連絡バスの運行について

大阪府「豊中市・吹田市・茨木市・箕面市のいずれか、またはこれらの市を含む地域」に暴風警報又は特別警報が発令された場合、又は、公共交通機関の運休により全キャンパスにおける授業が休講となる場合、学内連絡バスの運行は下記のとおりです。

- 午前6時以前に警報・運休が解除された場合 → 時刻表どおり運行
- 午前9時以前に警報・運休が解除された場合 → 午前12時以降運行（午前運休）
- 午前9時に警報・運休が解除されない場合 → 終日運休

学生の団体結成について

学生が学部・研究科内で団体等を結成しようとするときは、所定の様式により、事前に教務係に届け出て承認を受ける必要があります。全学的な団体等の結成については、学生センターに届け出て承認を受けてください。許可された団体は、毎年5月中旬に届出の更新をしなければいけません。また届出事項が変更したときも同様の手続きが必要です。この時に更新が行われない場合は、当該団体は解散したものとみなされます。なお、団体の結成、更新において、次に該当する場合は許可されないことがあります。

- (1) 団体等の目的及び団体の構成員氏名が明らかでないとき
- (2) 団体等の結成が学内の秩序を乱す恐れがあるとき
- (3) その他学部長・研究科長が不相当と認めるとき

海外留学について

大阪大学では様々なプログラムによる海外留学を積極的に推進しています。

○大阪大学交換留学（大学間派遣）

大阪大学と授業料等の相互不徴収及び単位互換等を明記する学生交流協定を締結している海外の大学（以下「協定校」という。）において、本学の学部又は大学院の正規課程に在籍する学生が、本学に在籍したまま、協定校で概ね1年以内の1学期又は複数の学期の間、科目の履修又は研究指導等の教育・研究の機会を得ることができます。

募集要項等の詳細については、下記大阪大学ホームページを検索・参照してください。

https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/ex_students.html

○大阪大学交換留学（部局間派遣）

人間科学部と学生交流協定を締結している協定校における交換留学については、人間科学研究科国際交流室にお問い合わせください。

○短期語学研修プログラム

大阪大学では多様な海外研修プログラムを実施しています。大阪大学ホームページ、KOAN掲示板及び国際交流室前掲示板にてお知らせしています。

学生の海外渡航について

学生が、教育・研究上の目的で海外渡航する場合は、事前に指導教員・受入れ教員及び家族等に渡航内容等を十分に説明し、指導教員・受入れ教員の承認を得たうえで、所定の届出様式を教務係に提出する必要があります。

（注1）外務省危険情報及び外務省感染症危険情報（以下、「外務省」省略）が出されていない地域への渡航であっても届出は必要です。

（注2）学部学生（研究生等を含む）で「危険情報：危険度1」の地域及び「感染症危険情報：危険度2・3」の地域への渡航を予定している場合は、渡航2ヶ月前までに必要書類を教務係まで提出してください。

（注3）大学院生（大学院研究生等を含む）で「危険情報：危険度1・2」の地域及び「感染症危険情報：危険度2・3」の地域への渡航を予定している場合は、渡航2ヶ月前までに必要書類を教務係に提出してください。

（注4）学部学生（研究生等を含む）で「感染症危険情報：危険度1」の地域への渡航を予定している場合は、渡航1ヶ月前までに必要書類を教務係まで提出してください。

（注5）大学院生（大学院研究生等を含む）で「感染症危険情報：危険度1」の地域への渡航を予定している場合は、渡航1か月前までに必要書類を教務係まで提出してください。

（注6）学部学生（研究生等を含む）が「危険情報：危険度2以上」の地域及び「感染症危険情報：危険度4以上」に渡航すること、大学院生（大学院研究生等を含む）が「危険情報：危険度3以上」の地域及び「感染症危険情報：危険度4以上」に渡航することは原則として認めません。

ただし、指導教員等が同行する場合は、渡航を認める場合があります。

また、学部学生（研究生等を含む。）が「危険情報：危険度1」の地域及び「感染症危険情報：危険度2・3」に渡航する場合、大学院学生（大学院研究生等を含む。）が「危険情報：危険度1・2」の地域及び「感染症危険情報：危険度2・3」に渡航する場合には、本研究科の海外研究活動検討委員会で渡航の可否について審議します。審議の結果によっては渡航の見送り等を指示することもあります。

なお、海外渡航滞在中に、その地域の危険度（感染症危険情報危険度も含める）が、認められている範囲を超えて引き上げられた場合は、ただちに指導教員と連絡を取り、自らの安全確保と情報収集に努めるとともに、もっとも安全な方法によってすみやかに危険地域外に退避してください。

提出書類

<危険情報は外務省海外安全ホームページの危険情報及び感染症危険情報に基づきます>

提出書類（所定の届出様式）は次のとおりです。危険度に応じて必要書類が異なります。「海外危険地域への渡航に関する人間科学研究科の取扱い方針」に従って作成提出してください。

- ① 海外活動届（指導教員の押印が必要）及び別紙「渡航目的及び活動内容の詳細」
- ② 海外渡航届（「海外渡航届システム」に渡航情報を登録後に両面を印刷）
※上記①②は、危険度に関わらず（危険情報が出されていない場合であっても）必ず提出及びオンライン登録が必要です。
※上記①の別紙「渡航目的及び活動内容の詳細」については、
ア）留学や学会出席の場合は、留学先大学、参加学会の名称、開催日程等を記入していること。
イ）調査研究活動の場合は、現地での調査内容や研究計画の詳細（現地での調査研究活動は人間科学研究科の研究倫理審査の承認を含む。）を記入していること。
- ③ 指導教員あるいは受入れ教員の署名押印のある理由書（任意の様式・指導教員の押印が必要）
※上記③は、危険情報の危険度1以上及び感染症危険情報の危険度2・3の地域に渡航する場合には必ず提出が必要です。危険情報が出されている地域への具体的な渡航理由や安全面における対応・対策等（渡航日程と訪問先、渡航目的、経費の出所、渡航地域の危険度に関する情報、安全確保の方法、感染症への対策など）を理由書として提出すること。
- ④ 「渡航確認シート・新型コロナウイルス感染症の影響により感染症危険情報（危険度2・3）に指定された国・地域への渡航前に確認すべき項目」（指導教員の確認が必要）及び誓約書
※上記④は新型コロナウイルス感染症により感染症危険情報：危険度2・3地域への派遣の場合には必ず提出が必要です。

提出書類など（渡航先の危険度別）

学部学生（研究生等を含む。）

		「海外活動届」 及び別紙 「渡航目的及 び活動内容の 詳細」	海外渡航届 システムへの 渡航情報登録	理由書	渡航確認 シート 及び誓約書	外務省 「たびレジ」 又は 「ORRnet」 への登録					
外務省 「危険情報」	危険情報なし	○	○	○	/	○					
	レベル1										
	レベル2						原則として渡航不可				
	レベル3										
	レベル4										
外務省 「感染症 危険情報」	危険情報なし	○	○	/	/	○					
	レベル1										
	レベル2						○	○			
	レベル3										
	レベル4								原則として渡航不可		

大学院学生（大学院研究生等を含む。）

		「海外活動届」 及び別紙 「渡航目的及 び活動内容の 詳細」	海外渡航届 システムへの 渡航情報登録	理由書	渡航確認 シート 及び誓約書	外務省 「たびレジ」 又は 「ORRnet」 への登録					
外務省 「危険情報」	危険情報なし	○	○	○	/	○					
	レベル1										
	レベル2						原則として渡航不可				
	レベル3										
	レベル4										
外務省 「感染症 危険情報」	危険情報なし	○	○	/	/	○					
	レベル1										
	レベル2						○	○			
	レベル3										
	レベル4								原則として渡航不可		

※教育・研究を目的とした海外渡航による帰国後は教務係に帰国した旨の連絡をすること。
（方法は自由）

※感染症危険情報が危険度2・3に指定された国・地域へ大学間交換留学・部局間交換留学
や部局等が実施する派遣プログラムにより派遣する海外派遣は、①海外活動届及び③指導
教員あるいは受入れ教員の署名のある理由書の提出は必要ありません。

「海外渡航届システム」へは、下記URLからログインしてください。

<https://www.abroad.icho.osaka-u.ac.jp/system/>

「海外危険地域への渡航に関する人間科学研究科の取扱い方針」の閲覧および
各提出書類の入手は、以下のURLから行ってください。

https://www.hus.osaka-u.ac.jp/ja/international_exchange/before_going_abroad.html

留学生危機管理サービス（OSSMA）について

人間科学部・人間科学研究科では、学生が海外渡航（旅行および一時帰国を除く）を行う場合、留学生危機管理サービス（OSSMA）の加入を義務付けています。OSSMAは、海外渡航中に困りごとや相談したいことが発生した場合に、24時間365日、日本語で適切なサポートが受けられるサービスです。保険ではありませんので、本サービス加入と合わせ、必ず海外旅行保険にも加入してください。詳細は下記ホームページを確認してください。

※旅行および一時帰国を除く

【大阪大学ホームページ／関連ページ】

https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/Studyabroad_crisis_management/6jweek

健康管理・学生相談

学生定期健康診断について

学生定期健康診断は、学校保健安全法及び大阪大学学生健康診断規程で受検が義務付けられている健康診断です。全学生が必ず受検しなければなりません。毎年4月の指定する期間に実施されますが、日時、場所等についてはKOAN掲示等でお知らせします。

なお、特に学部卒業年次・大学院修了年次の学生は、この学生定期健康診断を受検していない場合には、就職や進学の際に必要な健康診断書が発行されませんので注意してください。

キャンパスライフ健康支援・相談センターの診療について

大阪大学キャンパスライフ健康支援・相談センターは、豊中本室、吹田分室、箕面分室において、学内の保健管理、健康相談、疾病予防、救急措置、精神衛生相談等を主な業務として、学生・教職員の健康保持、健康増進を図っています。キャンパスライフ健康支援・相談センター保健管理部門には、医師、看護師、臨床検査技師等が勤務し、診察や健康相談等を行っています。女性のカウンセラーや医師による女性専門の外来も開設しています。受付時間、診察・相談等の対応時間及び診療科ごとの週間診療予定表など、詳細は下記ホームページを確認してください。

大阪大学キャンパスライフ健康支援・相談センター <https://hacc.osaka-u.ac.jp/ja/>

全学各種相談窓口

■キャンパスライフ健康支援・相談センター相談支援部門（全学）

キャンパスライフ健康支援・相談センター相談支援部門は、学生や教職員の皆様のさまざまな困り事や悩み事についての相談へ応じたり、支援を提供したりする部門です。学生の皆様を対象にした活動としては、1) 学生相談（カウンセリング）、2) アクセシビリティ支援（障がいや慢性疾患を有する学生の支援）、3) ピア活動支援（学生どうしの助け合いの支援）、4) アセスメント（障がいや性格特性等についてのアセスメント）などがあります。

また、保健管理部門との連携のもとに、なんでも相談窓口を設け、学生や教職員の皆様がどこに相談すればよいか分からないと感じたときに気軽に利用していただけるような体制を整えています。それぞれの相談予約など、詳細はホームページを確認してください。

○学生相談

本学の学生であれば誰でも、同部門の学生相談室を利用することができます。学生相談室は、どのような悩みでも受け付けており、経験を積んだカウンセラーがあなたの話を親身になって聴いて、悩みの解決に協力します。相談内容や来談者氏名は誰にも知られないよう秘密は厳守されます。

（事前に相談予約が必要）

○アクセシビリティ支援

同部門のアクセシビリティ支援室は、障がいを持っている学生だけではなく、大学生活で困難を感じているすべての学生に対してアドバイスや情報の提供などを行っています。

（事前に相談申し込みが必要）

○ピア相談

学業、進路、人間関係の悩みのほか、サークル活動や経済上の問題など、学生生活上のこと
がらについて、本学大学院人間科学研究科で臨床心理学を専攻している大学院生（ピア・アド
バイザー）が、同じ世代の立場からお話を聞きます。

（事前に相談予約が必要）

○なんでも相談

どこかで相談したいが、どこに行けばよいかよく分からないというような相談や SOGI 相談
等をお受けし、適切な学内外の相談支援機関や医療機関を紹介します。

必要に応じ、紹介先の機関と連携や連絡をとりあって、相談がスムーズに進むようにサポー
トします。

大阪大学キャンパスライフ健康支援・相談センター相談支援部門

<https://hacc.osaka-u.ac.jp/ja/home/sosiki/sodansien/>

○ハラスメント相談室（全学）

大阪大学では、ハラスメントのない大学を目指し、その発生の防止や解決に取り組んでいます。
各キャンパスには、全学のセクシュアル・ハラスメント相談室及びアカデミック・パワー等ハ
ラスメント相談室がそれぞれ設置されており、各相談室では、専門の相談員（カウンセラー）
が問題の解決にあっています。なお、全学のハラスメント関連相談室での相談を希望する場
合は、事前に電話予約を行ってください。詳細は下記ホームページを確認してください。

大阪大学キャンパスライフ健康支援・相談センターハラスメント相談室

https://www.osaka-u.ac.jp/ja/campus/life/prevention_sh

■キャリアセンター（全学）

キャリアアドバイザーに就職相談（進路相談）ができます。予約システム（進路・就職相談予
約管理システム）で希望日時・キャンパスの予約をしてください。オンライン・対面による相
談に対応しています。詳細は下記ホームページを確認してください。

大阪大学キャリアセンター <https://career.osaka-u.ac.jp>

人間科学部・人間科学研究科相談窓口

○就職・進路相談、学生相談

人間科学部・人間科学研究科では、専任教員が学生の就職・進路に関する相談、学生の生活
上の諸問題の相談に応じ、問題解決の援助を行うために、学生支援室を設置しています。

学生支援室に相談したいことがあれば、下記アドレスまでご連絡ください。

人間科学部・人間科学研究科学生支援室（人間科学部本館 2 階北ウイング）

➤ 専用メールアドレス：student☆hus.osaka-u.ac.jp

※メール送信時には、「☆」を「@」に置き換えてください。

人間科学部・人間科学研究科学生支援室 <https://www.hus.osaka-u.ac.jp/ja/ssso/>

○障がい等のある学生相談

人間科学部・人間科学研究科に在籍する障がい等のある学生に対する相談窓口を設置しています。障がい学生相談窓口では、修学上の配慮を希望するなど、障がい等のある学生の支援に関する相談を受け付けていますので、相談を希望する方は、下記メールアドレスまでご連絡ください。相談内容については、秘密を厳守したうえで、担当者がご相談に対応いたします。

- 相談専用メールアドレス：shien☆hus.osaka-u.ac.jp
※メール送信時には、「☆」を「@」に置き換えてください。

人間科学研究科学生相談（学部・大学院）

<https://www.hus.osaka-u.ac.jp/ja/students/support.html>

○人間科学研究科ハラスメント相談室

人間科学研究科にもハラスメント相談室が設置されており、各相談員が相談に応じています。ハラスメントの被害に遭ったときや周囲の人が被害に遭って困っているときは、まずは人間科学研究科ハラスメント相談室にご相談ください。相談員は、相談者の名誉やプライバシーを堅く守ります。詳細は下記ホームページを確認してください。

人間科学研究科ハラスメント相談室 <https://www.hus.osaka-u.ac.jp/ja/harassment/>

保険・リスク管理

学生教育研究災害傷害保険（学研災）について

学生教育研究災害傷害保険（学研災「がっけんさい」）は、学校行事中、学校施設内にいる間、学校施設内外での課外活動中又は通学中・大学施設間移動中に被ったケガに対し、その治療日数に応じて保険金が支払われる全国規模の補償制度であり、大阪大学では入学時に全員が加入することとしています。加入がまだの方は、すぐに加入の手続きをとってください。

注1）人間科学部の学部生は各自で加入する必要があります。なお、学外で行われる授業や実習への参加、海外へ留学する場合などは、この保険の加入が原則必要となります。

注2）人間科学研究科の大学院生については、人間科学研究科の公費負担により、全ての学生（研究生等正規生は除く）に対して、この保険の加入を行っていますので、新たに加入手続きを行う必要はありません。

加入方法の詳細、保険金の内容、保険金の請求手続き等については、下記ホームページを参照してください。

【問い合わせ先】

豊中生協事務所（総務部）保険担当（豊中キャンパス・豊中福利会館4階）

06-6841-3326

吹田工学部生協事務所保険担当（吹田キャンパス・センテラス2階）

06-6877-6509

【大阪大学ホームページ／関連ページ】

<https://www.osaka-u.ac.jp/ja/campus/life/insurance.html>

学生教育研究賠償責任保険（学研賠）について

学生教育研究賠償責任保険（学研賠「がっけんばい」）は、正課、学校行事、課外活動として大学が認めたインターンシップ、介護体験活動、教育実習、保育実習、ボランティア活動およびその往復途中で、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したりしたことにより被る法律上の損害賠償を補償します。「学研災」に先に加入していなければ、「学研賠」に加入することはできません。加入希望者は必ず「学研災」に加入していることを確認のうえ、大学生協の保険窓口で必要書類を受け取り、郵便局の窓口で保険料を払い込んでください。

注1）人間科学部の学部生は各自で加入する必要があります。なお、学外で行われる授業や実習への参加などは、この保険の加入が原則必要となります。

注2）人間科学研究科の大学院生については、「学研災」と同様に、人間科学研究科の公費負担により、全ての学生（研究生等正規生は除く）に対して、この保険の加入を行っていますので、新たに加入手続きを行う必要はありません。

留学生危機管理サービス（OSSMA）について

人間科学部・人間科学研究科では、学生が海外渡航（※）を行う場合、留学生危機管理サービス（OSSMA）の加入を義務付けています。OSSMAは、海外渡航中に困りごとや相談した

いことが発生した場合に、24時間365日、日本語で適切なサポートが受けられるサービスです。保険ではありませんので、本サービス加入と合わせ、必ず、海外旅行保険にも加入してください。詳細は下記ホームページを確認してください。

※旅行および一時帰国を除く

【大阪大学ホームページ／関連ページ】

https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/Studyabroad_crisis_management/6jweek

抗体検査の検査料の補助について

人間科学部・人間科学研究科では、多くの学部学生や大学院生が、保育所・幼稚園・小学校・中学校、さらには社会福祉施設や病院等の外部機関・外部施設において、実習や研究活動を行っています。このような現場に出かける際には「事前予防」に留意しながら、「病気を持ち込まない、持ち帰らない」こと、あるいは「病気の発生源にならないこと」が、学生自身及び現場の人々の健康や安全を守るためにも重要なことであり、リスク管理の観点からも強く求められています。また、人間科学研究科に來校する外部の者（心理相談者、実験協力者等）に対応する学生についても、同様の配慮が必要となります。

このことから、人間科学部・人間科学研究科の学生が、外部機関等において実習や研究活動を行う場合、または人間科学研究科に來校する外部の者に対応予定の場合には、抗体検査（風疹、麻疹、水痘、ムンプスの4種）を受けることになっており、人間科学部・人間科学研究科の該当学生を対象に、毎年5月と10月の年2回、抗体検査（風疹、麻疹、水痘、ムンプス）の検査料の補助をしています。申し込み期間（指導教員・クラス担任を通じて教務係へ申し込む）等についてはKOAN掲示板等でお知らせします。

安否確認システムについて

大阪大学では、2018年6月18日に発生しました大阪府北部を震源とする地震を受け、学生及び教職員等の安否確認を速やかに行い、大学として必要な支援を検討・実施するために、「マイハンダイ」を利用した安否確認システムを構築しています。安否確認システムへの入力対象となる災害が発生した場合は、マイハンダイ（<https://my.osaka-u.ac.jp/>）にログインして安否確認情報を入力してください。

【入力対象となる災害】

- ・大阪府、兵庫県のうち、神戸市・芦屋市・西宮市・尼崎市・明石市・宝塚市・川西市・伊丹市・三田市のいずれかで、震度5強以上の地震が発生した場合。
- ・上記以外の地震、他の災害（自然災害、テロ等）で安否確認システムによる安否確認を実施する場合は、大学HP等でお知らせします。

その他リスク管理について

教育研究活動、学生生活には、常にあらゆるリスクが内在しています。人間科学研究科・人間科学部では、安全対策やリスク管理のガイドブック「リスクのくすり」を作成し、人間科学研究科のHP上で閲覧できるようにしています。必ず読むようにしてください。

資格・免許

教育職員免許状

大学を除くすべての国公立学校の教員（常勤、非常勤を問いません）になるためには、それぞれ相当の教員免許状を有する必要があります。本学部・研究科で取得できる免許状は下表のとおりです。

例年4月初旬に大阪大学全体での教職課程ガイダンスが行われます。教育職員免許状取得希望者は参加してください。

教員免許状の取得については、上記の教職課程ガイダンスで配布される『大阪大学【教職課程ブックレット】①《教職課程への招待》』を参照してください。（教務係でも入手可能です。）

なお、教職課程及び教員免許状に関する連絡は、すべてKOAN掲示板により行われます。

課 程	免許状の種類	免許状の教科
学 部（人間科学部）	中学校教諭一種免許状	社会
	高等学校教諭一種免許状	地理歴史、公民
大学院（人間科学研究科）	中学校教諭専修免許状	社会
	高等学校教諭専修免許状	地理歴史、公民

大阪大学ホームページ／教職課程

<https://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/career/teacher/teacher-certification-course>

公認心理師

国家資格公認心理師は、保健医療、福祉、教育等の分野において、心理学に関する専門的知識及び技術をもって、心理に関する支援を要する人々への業務に従事します。その内容には、心理状態の観察とその結果の分析、心理に関する相談及び助言・指導等の他、関係者に対する援助や、心の健康に関する教育・情報提供が含まれます。

公認心理師資格試験の受験資格を得るためには、大学において心理学等に関する所定の科目（表1）を修め、かつ、大学院において心理学等の所定の科目（表2）を修めてその課程を修了することが求められます。その他、大学で心理学等に関する所定の科目を修めて卒業後、養成プログラムを備えていると認定された施設において、一定期間の実務経験を積んで受験資格を得ることも認められていますが、その施設は少数です（令和5（2023）年12月1日現在）。

表1. 大学における必要な科目

公認心理師省令科目名称		単位数	左記に該当する本学部の開講科目
A. 心理学基礎科目	公認心理師の職責	2単位	公認心理師の職責
	心理学概論	2単位	行動学概論（心理学概論）
	臨床心理学概論	2単位	臨床心理学概論
	心理学研究法	2単位	臨床教育学実験実習Ⅲ（心理学研究法） 人間行動学実験実習Ⅲ（心理学研究法） 行動生態学実験実習Ⅲ（心理学研究法）
	心理学統計法	2単位	心理学統計法
	心理学実験	2単位	心理学実験
B. 心理学発展科目 基礎心理学	知覚・認知心理学	2単位	基礎心理学（知覚・認知心理学） 応用認知心理学（知覚・認知心理学）
	学習・言語心理学	2単位	学習生理学（学習・言語心理学）※
	感情・人格心理学	2単位	感情・人格心理学 感情・人格心理学（理論と実践）
	神経・生理心理学	2単位	認知心理生理学（神経・生理心理学）
	社会・集団・家族心理学	2単位	社会・集団・家族心理学
	発達心理学	2単位	比較発達行動学（発達心理学）
	障害者・障害児心理学	2単位	共生の人間学Ⅰ（障害者・障害児心理学）
	心理的アセスメント	2単位	臨床教育学実験実習Ⅰ（心理的アセスメント） 人間行動学実験実習Ⅰ（心理的アセスメント） 行動生態学実験実習Ⅰ（心理的アセスメント）
	心理学的支援法	2単位	心理学的支援法
B. 心理学発展科目 実践心理学	健康・医療心理学	2単位	健康・医療心理学 行動医学・健康行動論
	福祉心理学	2単位	臨床死生学・老年行動学（福祉心理学）
	教育・学校心理学	2単位	教育・学校心理学
	司法・犯罪心理学	2単位	司法・犯罪心理学
	産業・組織心理学	2単位	産業心理学（産業・組織心理学）
B. 心理学発展科目 心理学関連科目	人体の構造と機能及び 疾病	2単位	人体の構造と機能及び疾病
	精神疾患とその治療	2単位	精神疾患とその治療
	関係行政論	2単位	関係行政論
C 実習演習科目	心理演習	2単位	臨床教育学実験実習Ⅱ（心理演習） 人間行動学実験実習Ⅱ（心理演習） 行動生態学実験実習Ⅱ（心理演習） 認知行動工学演習Ⅱ（心理演習）
	心理実習	2単位	心理実習

※ 隔年開講

表 2. 大学院における必要な科目

公認心理師省令科目名称	単位数	左記に該当する本研究科の開講科目
A.心理実践科目		
保健医療分野に関する理論と支援の展開	2単位	保健医療分野に関する理論と支援の展開
福祉分野に関する理論と支援の展開	2単位	臨床死生学・老年行動学特講Ⅰ（福祉分野に関する理論と支援の展開）
教育分野に関する理論と支援の展開	2単位	教育分野に関する理論と支援の展開
司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	2単位	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開
産業・労働分野に関する理論と支援の展開	2単位	安全行動学特講Ⅰ（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）※
心理的アセスメントに関する理論と実践	2単位	比較発達心理学特講（心理的アセスメントに関する理論と実践） 臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）
心理支援に関する理論と実践	2単位	臨床心理面接特講Ⅰ（心理支援に関する理論と実践） 心理支援法特講（心理支援に関する理論と実践）
家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	2単位	共生行動論特講Ⅰ（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）
心の健康教育に関する理論と実践	2単位	心の健康教育に関する理論と実践
B. 実習科目		
心理実践実習Ⅰ	3単位	心理実践実習Ⅰ
心理実践実習Ⅱ	3単位	心理実践実習Ⅱ
心理実践実習Ⅲ	3単位	心理実践実習Ⅲ
心理実践実習Ⅳ	3単位	心理実践実習Ⅳ

※ 隔年開講

公認心理師の受験資格取得を希望する方は、公認心理師に関するガイダンスに参加すると共に、下記の他、KOANの掲示や本研究科ホームページのお知らせに注意してください。

大阪大学人間科学部公認心理師プログラムwebサイト
<https://www.hus.osaka-u.ac.jp/ja/kouninshinrishi/>

厚生労働省公認心理師Webサイト

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000116049.html>

認定心理士

「公益社団法人日本心理学会認定心理士（以下、認定心理士と呼びます）」は、公益社団法人日本心理学会がその資格取得希望者に対して、“この人物は心理学に関する標準的な基礎知識と基礎技術とを正規の課程において修得している”ということを確認する資格であり、現在において、同学会が心理学に関して認定している唯一の資格です。

資格取得の基礎条件は、四年制大学を卒業し学士の学位を取得もしくは大学院修士課程を修了し修士の学位を取得していることに加え、認定資格細則が指定する心理学関係の所定の単位を修得していることなどです。その所定の単位は、心理学概論や心理学研究法、心理学実験実習等の基礎科目、および知覚心理学や教育心理学、社会心理学等の選択科目を中心に構成され、総単位は36単位以上が求められます。詳細については、公益社団法人日本心理学会のホームページを参照してください。

公益社団法人日本心理学会のホームページ <https://psych.or.jp>

臨床心理士（一種）

臨床心理士は、大学院教育で得られる高度な心理学的知識と技能を用いて、臨床心理査定（心理テスト）、臨床心理面接（心理療法・心理カウンセリング）、臨床心理学的地域援助およびそれらの研究調査等の業務を行います。

臨床心理士の資格は、文部科学省の認可を受けた「公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会」によって認定されます。資格審査は、書類審査、筆記試験、および口述審査により、原則として年1回行われます。平成13年度以降の入学者は、本研究科臨床心理学研究分野の博士前期課程を修了後、臨床心理士の資格試験を受けることが出来ます。

【修得が必要な授業科目と単位について】

「公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会」が指定している必修科目および選択必修科目は、次のとおりです。必修科目は①～⑤すべてにつき括弧内の必要単位以上を、さらに選択必修科目はA～E群すべてにつき各2単位以上を、該当する本研究科の開講科目から修得しなければなりません。

「日本臨床心理士資格認定協会」が指定する科目		左記に該当する本研究科の開講科目
必修科目	① 臨床心理学特論（4単位）	臨床心理学特講Ⅰ（2単位） 臨床心理学特講Ⅱ（2単位）
	② 臨床心理面接特論（4単位）	臨床心理面接特講Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）（2単位） 臨床心理面接特講Ⅱ（2単位）
	③ 臨床心理査定演習（4単位）	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）（2単位） 臨床心理査定演習Ⅱ（2単位）
	④ 臨床心理基礎実習（2単位）	臨床心理基礎実習Ⅰ（2単位） 臨床心理基礎実習Ⅱ（2単位）
	⑤ 臨床心理実習（2単位）	臨床心理実習Ⅰ（2単位） 臨床心理実習Ⅱ（2単位） 臨床心理学特定演習Ⅰ（2単位） 臨床心理学特定演習Ⅱ（2単位）

「日本臨床心理士資格認定協会」が指定する科目		左記に該当する本研究科の開講科目
選択必修科目A群	心理学研究法特論	—
	心理統計法特論	行動統計科学特講Ⅰ（2単位） 行動統計科学特講Ⅱ（2単位）
	臨床心理学研究法特論	臨床心理学研究法特講（2単位）
選択必修科目B群	人格心理学特論	人格心理学特講（2単位）
	発達心理学特論	比較発達心理学特講（心理的アセスメントに関する理論と実践）（2単位）
	学習心理学特論	—
	認知心理学特論	応用認知心理学特講Ⅰ（2単位） 応用認知心理学特講Ⅱ（2単位）
	比較行動学特論	—
	教育心理学特論	教育分野に関する理論と支援の展開（2単位）
選択必修科目C群	社会心理学特論	社会心理学特講Ⅰ（2単位） 社会心理学特講Ⅱ（2単位）
	人間関係学特論	—
	社会病理学特論	—
	家族心理学特論	—
	犯罪心理学特論	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開（2単位）
	臨床心理関連行政論	—
選択必修科目D群	精神医学特論	—
	心身医学特論	—
	神経生理学特論	—
	老年心理学特論	臨床死生学・老年行動学特講Ⅰ（福祉分野に関する理論と支援の展開）（2単位）
	障害者（児）心理学特論	—
	精神薬理学特論	—
選択必修科目E群	投映法特論	—
	心理療法特論	心理療法特講（2単位）
	学校臨床心理学特論	—
	グループ・アプローチ特論	—
	臨床心理地域援助特論	—

具体的にどのような授業科目や臨床経験が規定に適合するのか知りたい場合は、「公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会」監修の「臨床心理士になるために（誠信書房）」を参照してください。

公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会 <http://fjcbcp.or.jp>

社会調査士・専門社会調査士

社会調査士・専門社会調査士は、社会調査に関する教育制度を整備し、人材育成を組織化すると同時に、その専門的職業としての資格の制度化をはかるために、2008年に「一般社団法人社会調査協会」を設立し、社会調査士と専門社会調査士の認定を始めました。

社会調査士は、学部卒業レベルの資格であり、専門社会調査士は、大学院修士課程修了レベルの資格です。

社会調査士を取得するためには、大阪大学人間科学部・人間科学研究科の認定科目を「一般社団法人社会調査協会」の定めた規定にあわせて修得し、卒業・修了と同時（卒業・修了後は毎年3月末の申請受付時）に資格申請をしなければなりません。資格取得希望者は、必ず「一般社団法人社会調査協会」のホームページに公開されている大阪大学人間科学部の各年度の認定科目一覧を参照し、自身で入力してください。

専門社会調査士を取得するためには、以下の条件を満たすことが必要とされています。

- 1) 社会調査士の資格を有すること
- 2) 所定の科目の単位を修得すること
- 3) 社会調査結果を用いた修士論文を執筆すること

専門社会調査士についても、大阪大学人間科学研究科の認定科目は修得年度によって異なります。必ず「一般社団法人社会調査協会」のホームページを確認し、自身で入力してください。

一般社団法人社会調査協会のホームページ <http://jasr.or.jp>

Web上では、掲載を省略させていただきます。

Web上では、掲載を省略させていただきます。

時間割表やシラバスは、大阪大学大学院人間科学研究科・人間科学部
ホームページ／在学生の情報へ

<https://www.hus.osaka-u.ac.jp>

阪大(はんだい) 人科(じんか)



大阪大学大学院人間科学研究科 大阪大学人間科学部

〒565-0871 吹田市山田丘 1-2 電話 06(6877)5111(代表)

